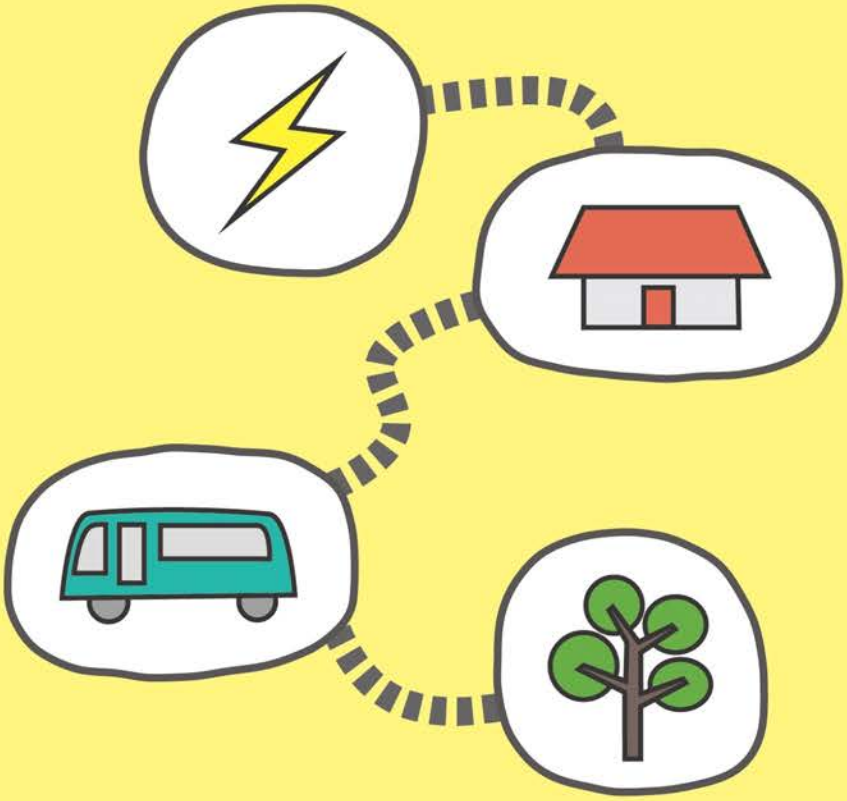
CO2ゼロのゆたかな
島づくり会議
報告書



沖縄県地球温暖化防止活動推進センター
一般財団法人 沖縄県公衆衛生協会

2024年2月

●目次

はじめに……..…… 1

「CO_2ゼロのゆたかな島づくり会議」実施の経緯……..…… 2

講師紹介……..……..……..……..…….. 3

実施内容：第1回……..……..…… 4

第2回……..…… 6

第3回……..…… 8

第4回……..……..…….. 10

CO_2ゼロのゆたかな島マップ１：都市～都市近郊編……..…… 12

CO_2ゼロのゆたかな島マップ２：郊外～島しょ地域編……..…….. 14

参加者の感想レポート……..…..…….. 16

あとがき……..…….. 28

●はじめに

脱炭素社会を目指すことは、世界、日本にとっての共通目標です。2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて、官民をあげての取組が推進されています。最新の世論調査では、脱炭素社会についての認知度は8割を超え、脱炭素社会の実現に向けて取り組む意欲のある方も9割を超えるなど、世論も脱炭素社会の実現を後押ししています。

一方で脱炭素社会の実現は、社会の仕組みを変える大変革を伴うものです。取られる政策によっては、利益を得る人と不利益を被る人が出ることもあります。そのため、市民（住民）の声を政策に反映させることで、特定の団体や組織の利益に偏らないようにすることが必要です。

市民の声を広く取り上げる場として、従来、自治体ではパブリックコメントやヒアリング等の場が設けられてきましたが、市民が得られる情報が一方通行であり、意見交換を行う場が限定的なため熟慮して回答できる方が限られるという弊害がありました。

そこで私たちは、市民（住民）の方の声を政策に反映させ脱炭素社会実現の後押しをする方策として、近年、一部の自治体で開催されている「気候市民会議」に着目しました。気候市民会議は、無作為に抽出された市民が気候変動対策について、専門家からの情報提供の後、熟議を経て提言にまとめる手法です。今年度は取組の試行として一般公募を行い、高校生から社会人まで様々な立場の方に参加をしていただき、「CO_2ゼロのゆたかな島づくり会議」として開催しました。開催結果を本報告書にまとめています。

沖縄県が真にCO_2ゼロのゆたかな島となるように、多くの自治体で同様の取組が行われていけば幸いです。

2024年2月

一般財団法人 沖縄県公衆衛生協会
沖縄県地球温暖化防止活動推進センター

●CO_2ゼロのゆたかな島づくり会議　実施の経緯

気候市民会議とは、行政が主催し、現状の年齢構成や男女比などを反映させた上で住民台帳から無作為に抽出された一般市民が集まり、気候変動対策について話し合う会議です。専門家からの情報提供を受けながら議論し、提言を作成し、それを政策に反映させます。2019年以降、主にヨーロッパ諸国で広がりを見せ、日本では2020年札幌市での実践例を皮切りに、川崎市、武蔵野市、所沢市等で実施されています。

沖縄県地球温暖化防止活動推進センターでは、かねてより温暖化対策に関する各種セミナー等を開催し、気候市民会議もいつか実現したいと考えていました。また2022年5月、市民団体のゼロエミッションラボ沖縄が気候市民会議をテーマにしたオンラインセミナーを主催し、沖縄でもぜひ気候市民会議を行いたいという声が上がりました。

そうした気候市民会議を沖縄で実現させる下地作りとして、まずは「プレ気候市民会議」を開催する意義があると考え、今回の『CO_2ゼロのゆたかな島づくり会議～沖縄版気候市民会議を目指して～』を行うこととなりました。

【開催目的】

1.市民が自ら「脱炭素のまちづくり」について議論し、持続可能な理想の都市計画を描く過程で、脱炭素に対する意識を高め、知識や関心をより深める。

2.話し合われた内容を「理想の都市計画」や「脱炭素のまちづくりアイデア集」などとしてまとめ、県内自治体に発信することで、自治体の脱炭素に対する意識向上をねらう。

【日時】　第１回　８月26日、第２回　９月23日、第３回　10月21日、第４回　11月25日
いずれも土曜日　９時30分～12時30分

【場所】　沖縄県立博物館・美術館　美術館講座室

【参加者】　沖縄県在住の高校生以上～大人一般で、基本的に４回の会議に出席可能な方：20名
※当初は定員15名で募集したが、33名の応募があり、定員枠を20名に増やした。

【進め方】

1．毎回１つのテーマを設けて専門の講師を２名招く。講師の話題提供により参加者の知識を深め、さらにワークショップでの議論をサポートしてもらう。テーマは「①エネルギー、②建築、③交通、④まちづくり」とする。

2．ワークショップでは、参加者は４つのグループに分かれて議論する。グループは「A 都市部、B 都市近郊、C 郊外、D 島しょ地域」をそれぞれ担当し、各地域を想定して、脱炭素の理想に向けたアイデア出しを行う。

※参加者には事前に希望のグループを第３希望まで出してもらい、今回は第１～第２希望の範囲内でグループ分けを行った。

3．議論では参加者の発言を互いに否定せず、自由にアイデアを話し合える場作りを心がける。

4．４回目の終了後に、参加者には感想レポートを提出してもらう。また、参加のための交通費と原稿謝金を支給する。

5．議論で出された意見を取りまとめ、脱炭素のまちづくりアイデア集のような位置付けで、県内自治体に対して情報発信を行う。

【主催・事務局】沖縄県地球温暖化防止活動推進センター

【ワークショップ運営協力】鹿谷麻夕、神谷美由希、石塚詩穂、賀数邦彦、松田かな子

●講師紹介

第１回　エネルギー

■宮城 康智氏　株式会社エネルギーラボ沖縄 代表

沖縄出身。一橋大学卒業後、沖縄電力入社、電力システム改革の現場を経験。2019年自然電力入社、太陽光発電のプロジェクトマネージャーや、地域への利益還元事業に携わる。2021年より沖縄県に拠点を戻し独立。2022年株式会社エネルギーラボ沖縄を設立、沖縄県を世界のエネルギーラボ（先端地域）とするため、地域エネルギー事業に取り組む。

■中川 鉄水氏　琉球大学理学部海洋自然科学科 准教授

広島出身。広島大で磁性材料の物理を研究、大学院から水素貯蔵の研究を開始。2009年学位取得、米国ロスアラモス国立研究所研究員、2012年筑波大学で博士研究員。同年琉球大学に着任。これまでの水素関連の研究を発展させつつ地域貢献のためのリサイクルの研究も行う。専門は無機材料科学。物理・工学・化学の経験から幅広い視点で研究に取り組む。

第２回　建築

■松田 まり子氏　松田まり子建築設計事務所 代表

沖縄出身。東京都市大学（前：武蔵工業大学）工学部卒業。2000～10年東京都内および沖縄県内建築設計事務所でデベロッパーなど勤務。2010～19年NPO蒸暑地域住まいの研究所前理事長。2019年より松田まり子建築設計事務所設立。

■村山 創氏　幸健ホーム設計室長、一級建築士

フラット35適合技術者、沖縄木造住宅協同組合事務局長、2014年国土交通省「地域型住宅ブランド化事業」採択、2020年ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー特別優秀賞受賞、2022年沖縄県中小企業団体中央会「優良組合」受賞。組合活動として会員企業の長期優良住宅、ゼロエネルギー住宅の設計支援を行う。SNSで住宅づくりの情報を発信中。

第３回　交通

■谷田貝 哲氏　バスマップ沖縄 主宰

2005年より沖縄在住。まちづくり・福祉系NPOやバス会社勤務のかたわら、2008年「バスマップ沖縄」を設立。バスの利用案内ツール「バスマップ沖縄」の作成や、脱クルマ依存化の活動に取り組む。京都大学大学院交通政策研究ユニット認定都市交通政策技術者、「くらしの足をみんなで考える全国フォーラム」実行委員、沖縄県環境保全功労者等。著書に「沖縄の路線バス お出かけガイドブック」（共著）ほか。

■石垣 綾音氏　まちづくりファシリテーター

IAF認定プロフェッショナルファシリテーター（CPF）。琉球大学で社会学、ハワイ大学大学院で都市計画を学び、ハワイの都市計画コンサル、県内の建築コンサルで働く。2019年独立。「人と土地をつなぐ、コミュニティをエンパワメントする」をモットーに県内でコミュニティと場づくりの活動を行い、防災・教育・食文化・歴史・観光など多分野において市民のパブリックマインドの醸成をはじめとするエンパワメントに取り組む。

第４回　まちづくり

■小野 尋子氏　琉球大学工学部工学科建築学コース 教授

20世紀は都市化の時代、21世紀は都市の時代と言われています。人類史上初めて世界人口の過半数が都市人口となったのも、21世紀初頭でした。私は、都市計画の中でも、土地利用計画を専門としています。開発と環境の調整を図りながら、次世代に残せる豊かな性格空間とは何かを、皆様と一緒に考えていければと願っています。

●CO2ゼロのゆたかな島づくり会議　実施内容

【第１回】エネルギー

■日時：2023年8月26日（土）　9:30～12:30

＜内容＞

【話題提供①】講師：宮城 康智氏（株式会社エネルギーラボ沖縄　代表）

　電力会社や太陽光発電事業に関わられたご経験をもとに、「沖縄におけるクリーンエネルギー」について、県内の現状や世界の動き、ビジネスレベルでの事例について紹介いただいた。このままでは県のカーボンニュートラル達成のハードルは高いことが示され、2045年までに脱炭素の目標を掲げて動いているハワイの取り組みを紹介、システムチェンジが必要であること、市民の積極的な関わりの重要性についてもご提案いただいた。

【話題提供②】講師：中川 鉄水氏（琉球大学理学部海洋自然科学科　准教授）

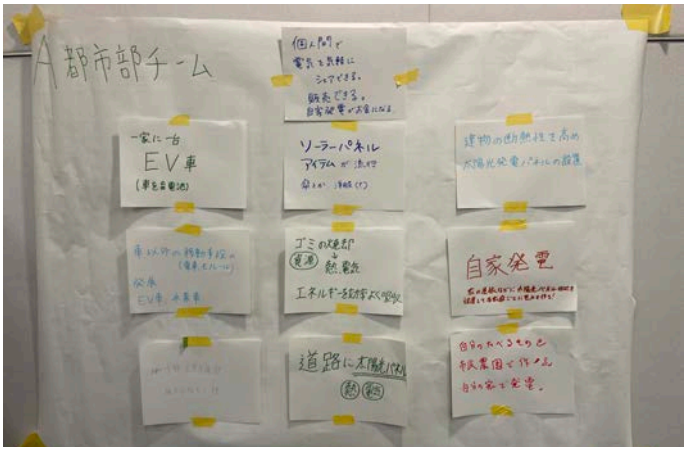
　水素エネルギーの専門家として、「エネルギーはどうやって貯める？」というテーマでお話をいただいた。再生可能エネルギーのデメリットとして、蓄電が難しいという事例をあげ、いかにエネルギーの高効率化を確立するかが課題であると指摘。その為には、水素やアンモニアなど革新的技術発展と市民の理解が進む必要があること、またエネルギーの備蓄は災害対策でもあるとのお話があった。

【グループディスカッション】

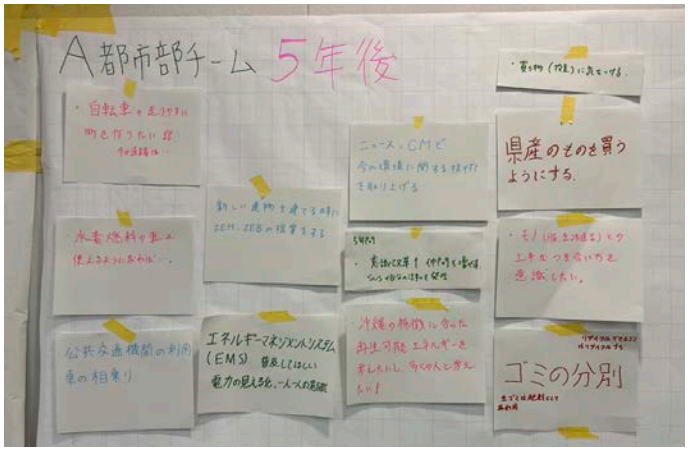
　ファシリテーターより、今後の人口構成の変化と超高齢化が進むことよる社会の変化を念頭に置く必要性を説明した後、それぞれのグループで化石燃料から再生可能エネルギーへのシフトを推進させるために、「2050年の未来の理想像」と、「その実現のために今から５年後にはどうなっていたいか」という２段階で、具体的なアイディアを議論した。未来の理想像について各グループで共通したのは、沖縄の自然を守りながら、クリーンエネルギーを普及することであった。郊外や島しょ地域においては、2023年8月に猛威をふるった台風６号の影響から、災害に強いまちづくりの必要性についても触れられていた。５年後のビジョンについては、環境教育の必要性が多く挙げられ、ゲームや啓発イベント、電力消費や供給の見える化を行うことで、県民の意識向上を図るアイディアなどが出された。

講師の宮城康智氏（左）、中川鉄水氏（右）

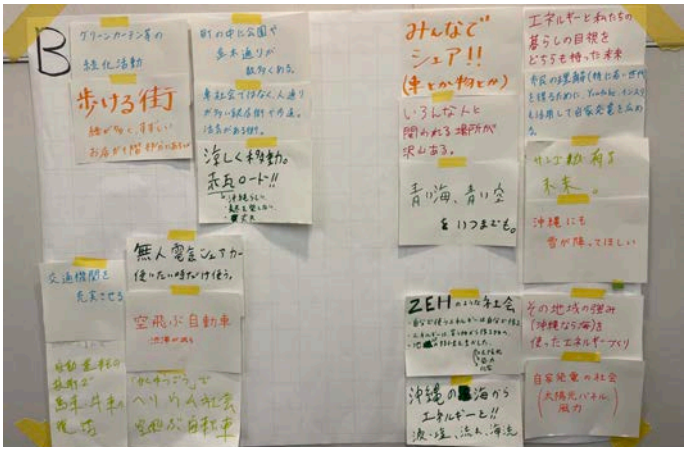
各チームからの報告の様子



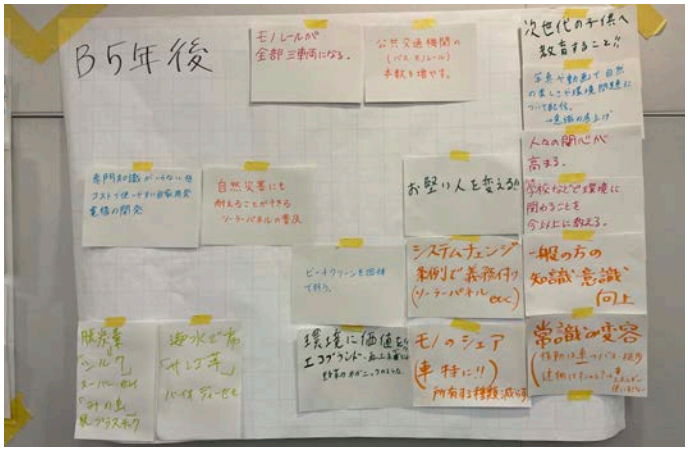
Aグループ：50年後の理想像



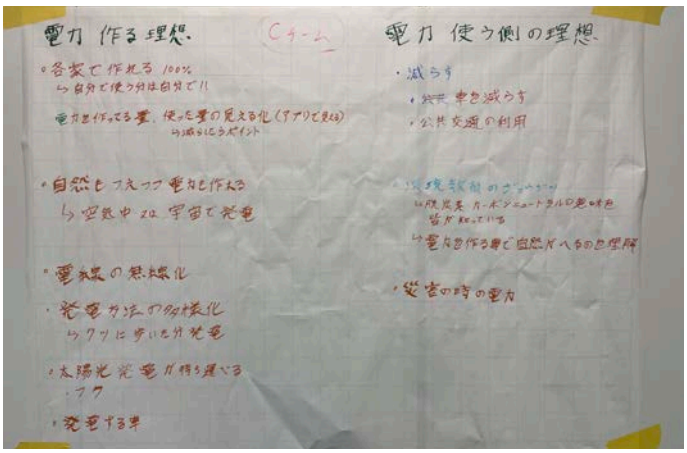
→そのために今から５年後にどうなっていたいか



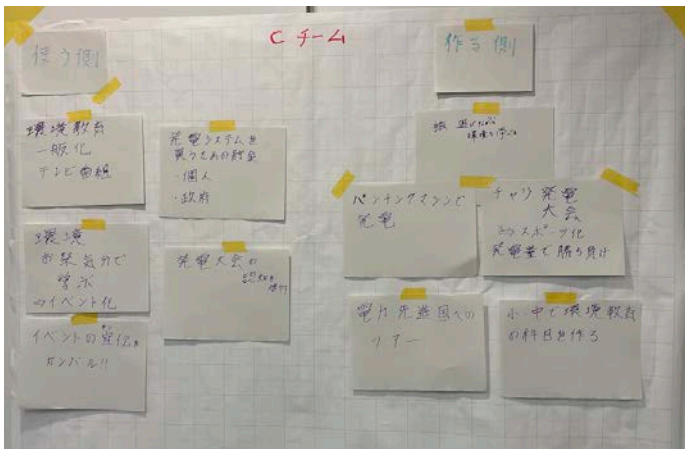
Bグループ：50年後の理想像



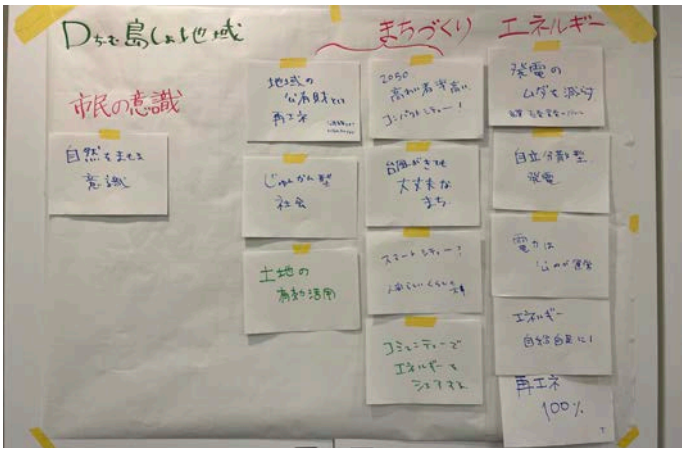
→そのために今から５年後にどうなっていたいか



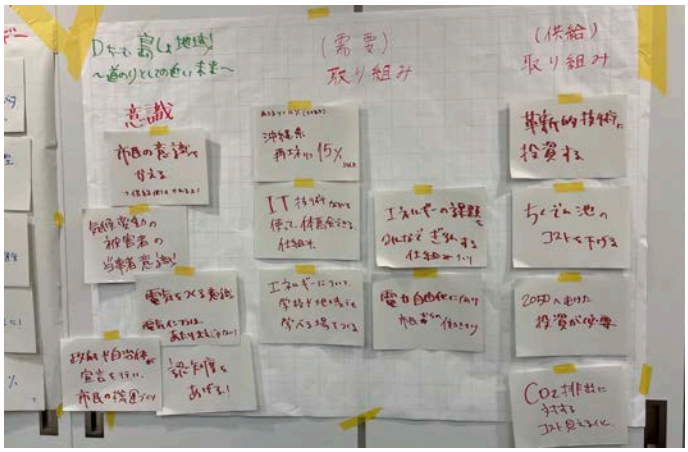
Cグループ：50年後の理想像



→そのために今から５年後にどうなっていたいか



Dグループ：50年後の理想像



→そのために今から５年後にどうなっていたいか

【第２回】建築

■日時：2023年9月23日（土）　9:30～12:30

＜内容＞

【話題提供①】講師：村山 創氏（株式会社幸健ホーム設計室長、一級建築士、フラット35適合技術者、沖縄木造住宅協同組合事務局長）

県内でゼロエネルギー住宅の普及に取り組む立場から、住宅に関するCO_2排出量や省エネ制度について解説いただいた。全体のCO_2排出量のうち家庭からが16％を占め、住宅改修や高効率給湯、省エネ機器への転換が必要であること、沖縄県はZEH（ゼロエネルギーハウス）普及率が3.5％と全国最下位だが、冬の消費エネルギーが少ないため実はZEH化がやりやすいこと、建築・運用・廃棄時のCO_2排出量も配慮したLCCM（ライフサイクルカーボンマイナス）住宅などについてお話いただいた。

【話題提供②】講師：松田 まり子氏（松田まり子建築設計事務所 代表、NPO蒸暑地域住まいの研究所 前理事長）

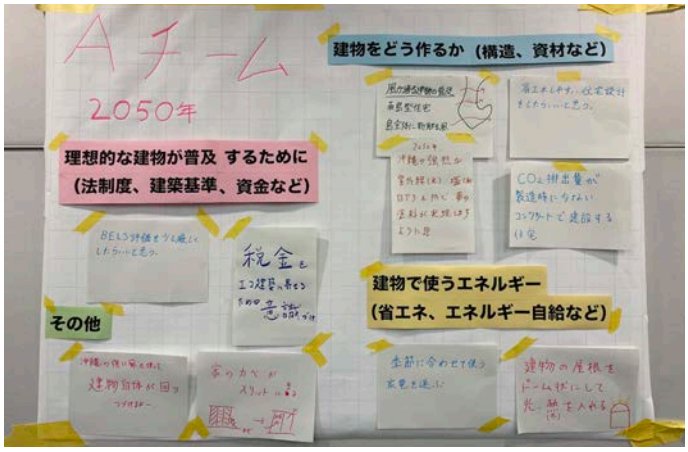
沖縄における気候風土に適した家づくりについてお話いただいた。家を省エネにすることは、自然生活指向から設備生活指向までどんな生活スタイルでも可能なこと、また蒸し暑い気候の沖縄では、風を通しつつ日射遮蔽をすることが重要で、すだれや緑のカーテン、花ブロックの活用、屋根には白色塗料を使うなど、比較的手軽な工夫次第で省エネを実践できることが示された。また沖縄には賃貸住宅が多いため、新築基準のみで対応するのではなく、リノベーションを進めて省エネ住宅を増やしていくことが必要との話もあった。

【グループディスカッション】

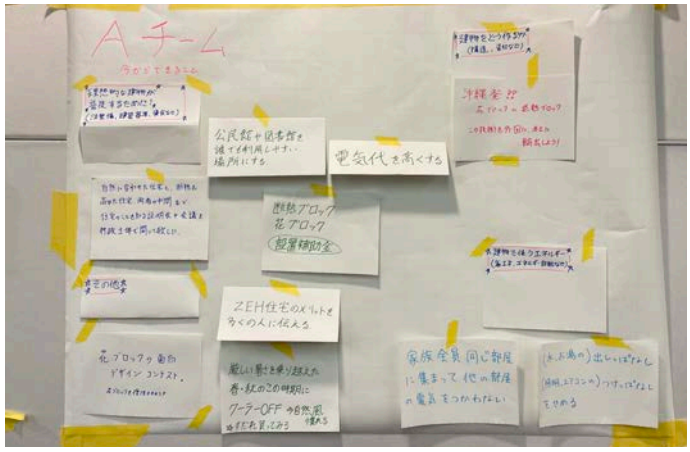
建物の構造、建物で使うエネルギー、理想的な建物が普及するための法制度や基準などの項目を立てて、それらのアイディアが議論された。100年もつ住宅を理想に、建築資材についても輸入ではなく県内や地元の資材を有効活用したり、ごみをリサイクルした資材の活用、３Ｄプリンターで家を建てるなど、新しいアイディアが多く出された。また、理想的な建物が普及するためには、BELS評価（建築物省エネルギー性能表示制度）やZEH基準について認知度の向上が必要であることが、各グループから共通して出されていた。今からでも省エネ対策に効果的な取り組みとしては、給湯・照明・空調などの省エネが必要かつ有効であることから、どうすれば県民により取り組んでもらえるか、省エネの見える化などのアイデアが話された。また、風を通しつつ日射を遮る建材として沖縄の花ブロックのすばらしさが挙げられ、このデザインコンテスト実施のアイディアも出された。

講師の村山創氏（左）、松田まり子氏（右）

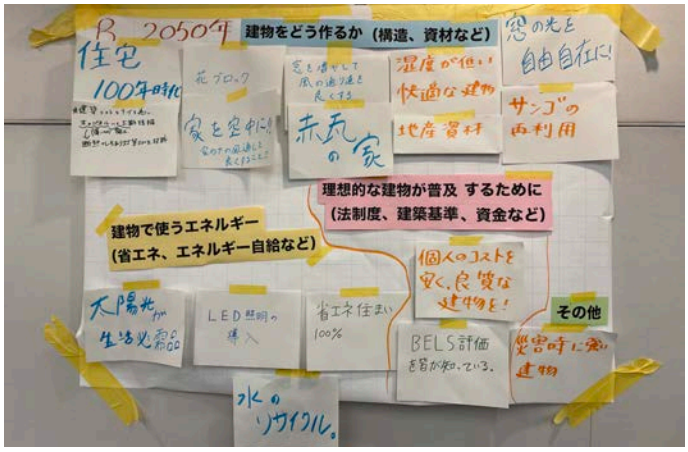
グループディスカッションの様子



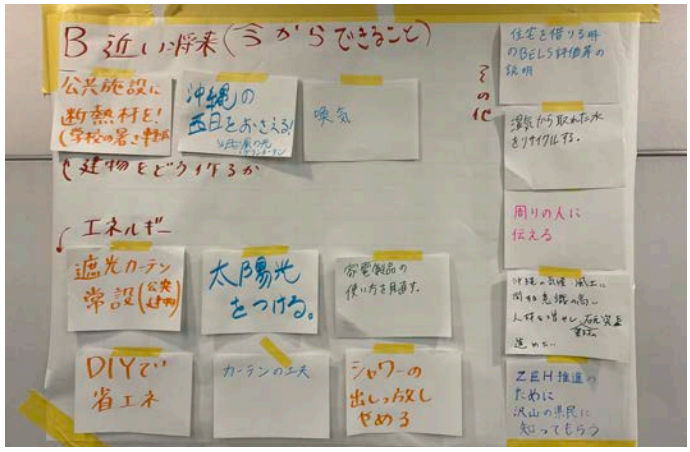
Aグループ：50年後の理想像



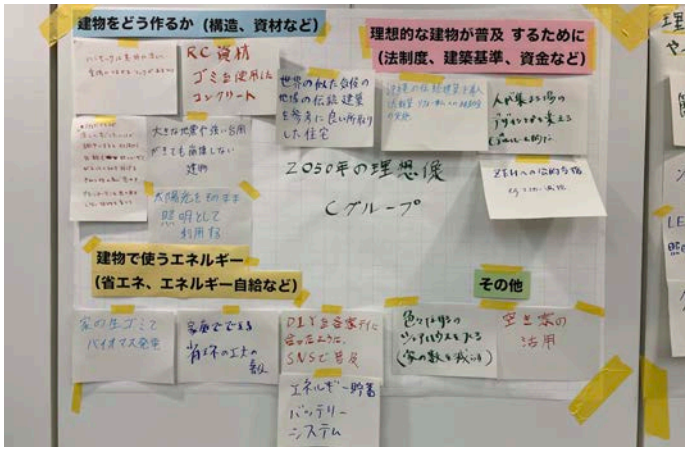
→そのために今からできること



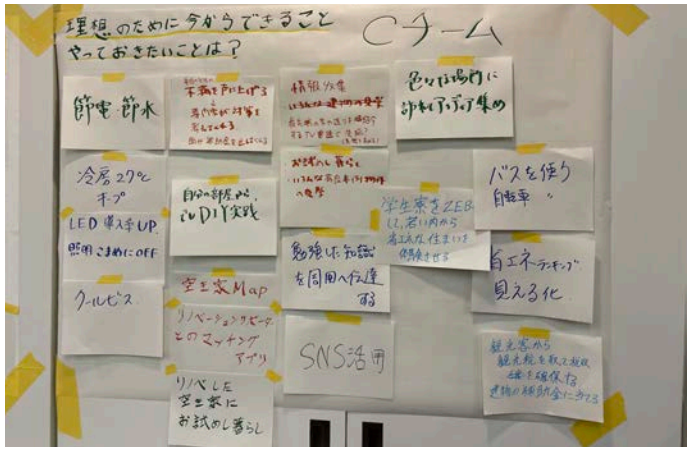
Bグループ：50年後の理想像



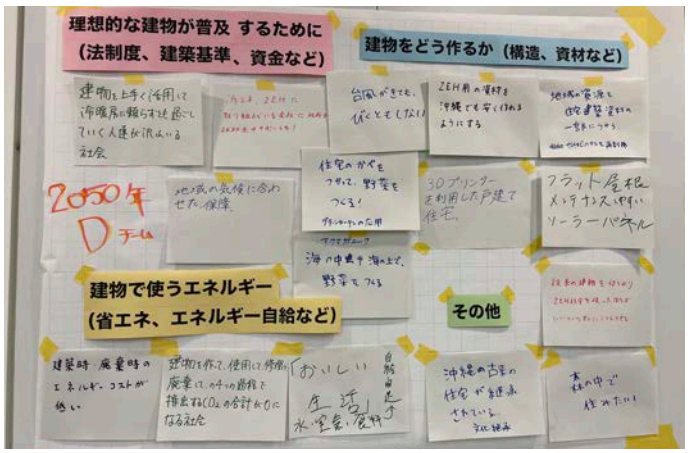
→そのために今からできること



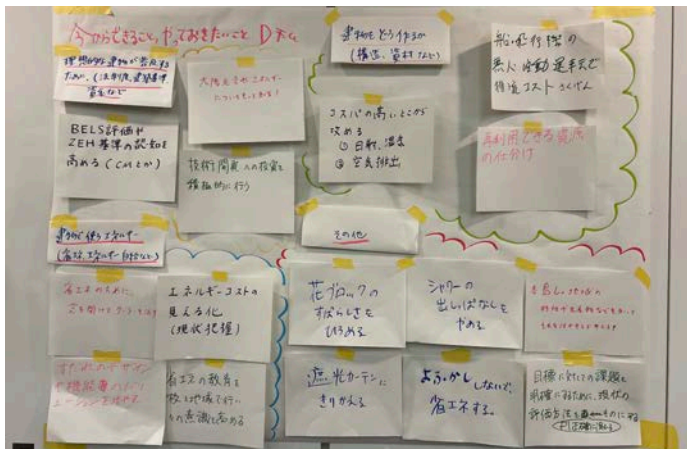
Cグループ：50年後の理想像



→そのために今からできること



Dグループ：50年後の理想像



→そのために今からできること

【第３回】交通

■日時：2023年10月21日（土）　9:30～12:30

＜内容＞

【話題提供①】講師：谷田貝 哲氏（バスマップ沖縄）

交通の脱炭素化を考える際に、車だけに頼る社会構造ではなく「移動の多様性をもつ」という視点をご提示いただいた。バスの利用者が半世紀で８割減少した一方、復帰前と比べて人口が1.5倍に対し車が6.４倍と激増し、渋滞解消には道路を作っても追いつかない状況であること、県内の発電が化石燃料由来であればEV車への乗り換えはCO_2対策にならないこと、郊外の商業施設は車移動が前提で作られているなどが指摘され、移動の基本は歩くこと、バスは一般に思われるほど不便ではない、また電動自転車やシェアサイクルの活用など、環境負担の低い移動手段についての様々な提案があった。

【話題提供②】講師：石垣 綾音氏（株式会社さびら、まちづくりファシリテーター）

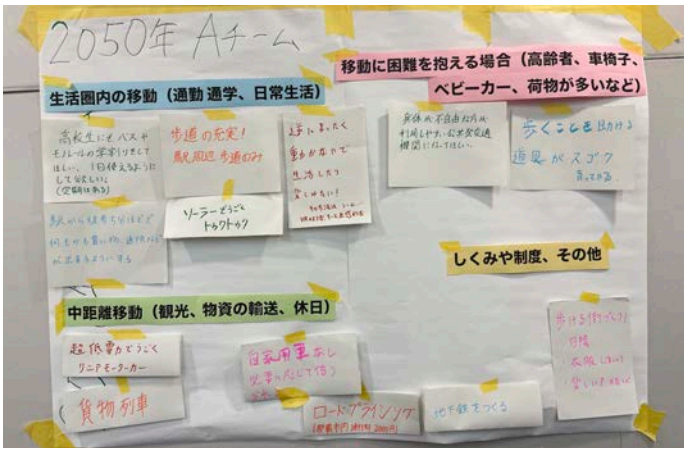
移動の多様性を確保しよう、ということを念頭に、公共交通の充実が求められること、日常の近距離移動はバスで、中距離やたまの遠出などにはLRTやBRT、コミュニティバスを使うなど、移動手段を使い分けることが提案された。また、そのためのMaaS（Mobility as a Service）という考え方による情報・支払い方法などの一元化、ハワイにおける公共交通指向型開発の事例、歩行者・自転車・公共交通・自家用車といった道路利用者のニーズのバランスをとってそれぞれに安全快適でスムーズな移動空間を作る「コンプリートストリート」というコンセプトが紹介された。

【グループディスカッション】

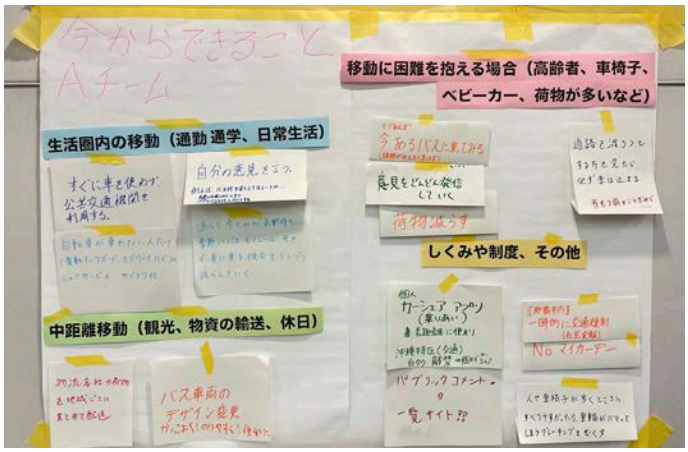
生活圏内の移動、中距離移動、移動に困難を抱える場合、仕組みや制度などの項目を立てて、都市部や郊外など暮らしの条件も異なる中で、脱炭素社会に進んでいくためにはどのような移動手段が望ましいか、グループで意見を出し合った。全てのグループで共通して出されたのは、歩くのが楽しくなるまちづくりへの期待、真の公共交通として移動手段を公的に支える仕組みが必要なこと、ライドシェアやカーシェアの普及など乗り合い文化が根付く社会を望む意見が多かった。

講師の谷田貝哲氏（左）、石垣綾音氏（右）

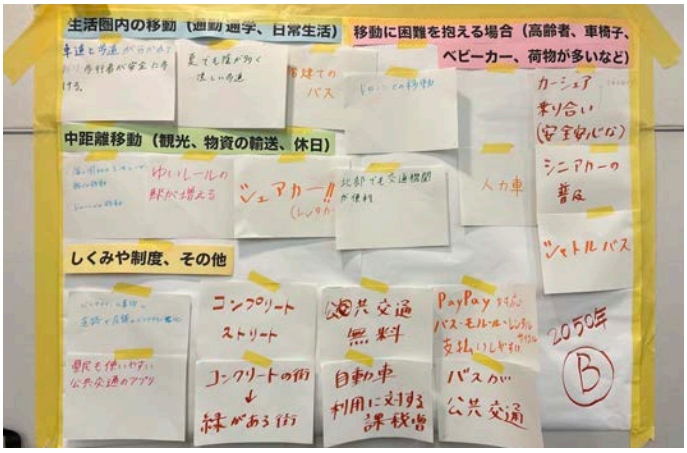
グループディスカッションの様子



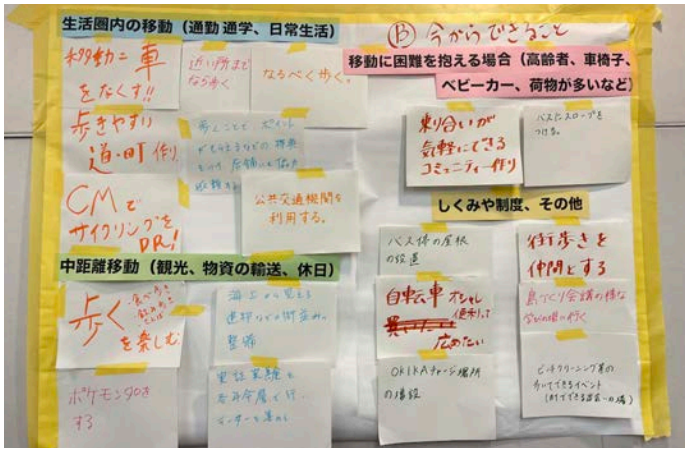
Aグループ：50年後の理想像



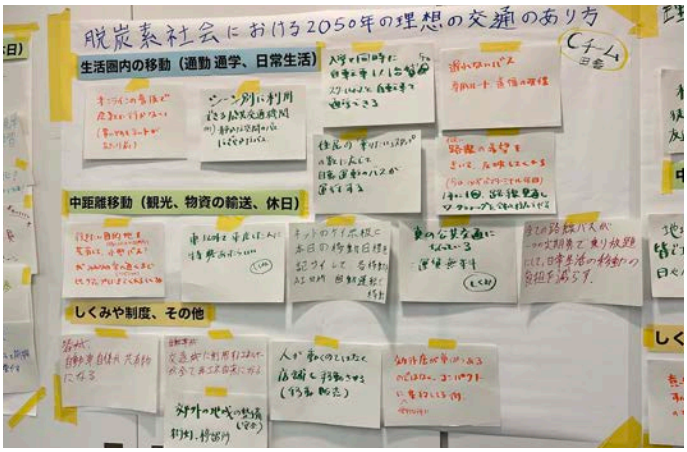
→そのために今からできること



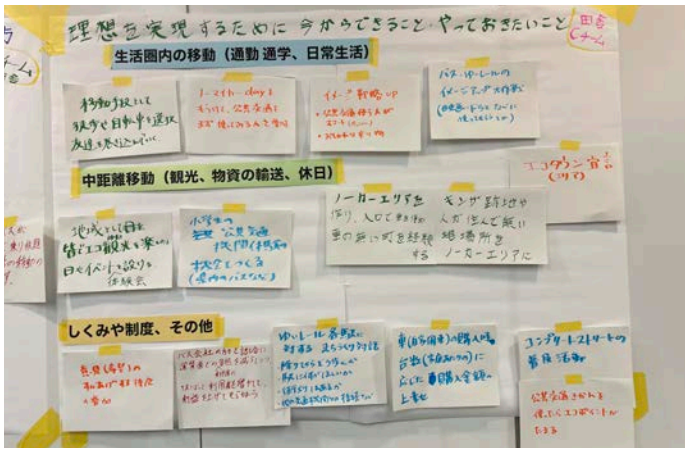
Bグループ：50年後の理想像



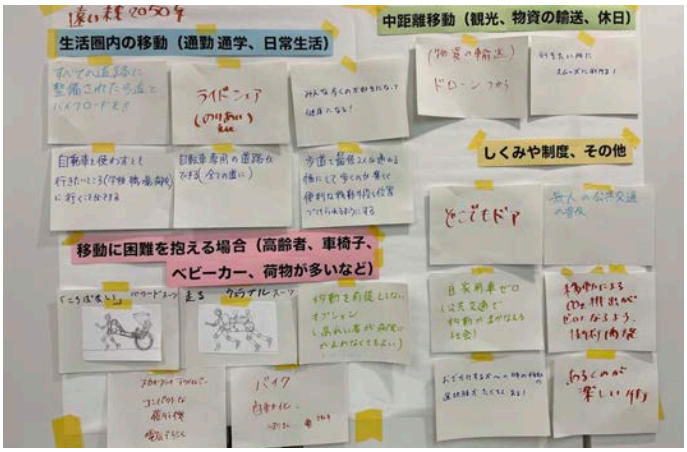
→そのために今からできること



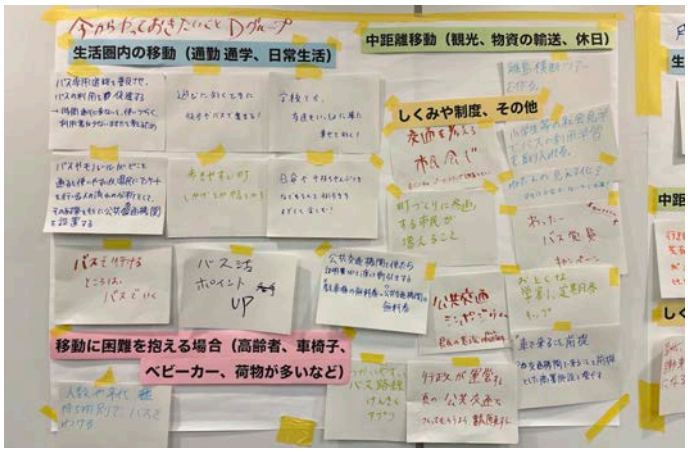
Cグループ：50年後の理想像



→そのために今からできること



Dグループ：50年後の理想像



→そのために今からできること

【第４回】まちづくり

■日時：2023年11月25日（土）　9:30～12:30

＜内容＞

【話題提供】講師：小野 尋子氏（琉球大学 工学部 工学科 建築学コース 教授）

シンガポールのまちづくりの事例として、全世帯の８割が公共住宅で、20代でも家が持てること、街路樹が多く緑豊かな公園があり、この緑が気温を下げて街を歩きやすくしていること、街の緑化比率200％を実現していることなどが紹介され、こうした施策は財の再配分である、と捉えて、公共財のあり方について話が進んだ。今後人口縮減が進めば、自治体が広域化し、公民館や図書館といった公共施設も広域で１つずつになると考えられるが、一方で公営の住宅供給が増えれば、民間住宅も質の良いものを安価で供給するようになること、そうした財の再配分をまちづくりとして考えていく必要性が示された。また、シンガポールでは国民の関心の高さが都市計画に反映されており、私たちはどのような暮らしを望むのか、という視点でまちづくりを考えようという提案があった。

このあと、第３回の講師を務めた石垣綾音氏（株式会社さびら、まちづくりファシリテーター）が質疑応答をサポートし、日本のジニ係数の変化や公共への財の再配分が大きく失われていること、PFIの功罪などについて小野先生の話を補足いただいた。

【グループディスカッション】

島づくり会議の最終回として、都市・都市近郊・郊外・島しょ地域それぞれを担当するグループで、県内各地の空中写真とこれまでの議論で生まれたアイデアを参考にしつつ、脱炭素社会における理想のまちづくりについてあたらめてアイディアを出し合った。今回は人や建物、交通手段、インフラなどのイラストカードを用意し、模造紙の上にアイディアとイラストを配置することで、理想のまちのマップづくりを試みた。太陽光や風力などの再生可能エネルギーを増やすほか、都市部では街の緑化や自転車の専用道路、ロードプライシングなどのアイデア、郊外や島しょ地域ではコミュニティバス、古民家や伝統的な建物の活用といったアイディアが出されていた。コンプリートストリートやコンパクトシティといった考え方を取り入れたいという声も上がっていた。

講師の小野尋子氏（左）、石垣綾音氏（右）

グループディスカッションの様子

Aグループ

Bグループ

Cグループ

Dグループ

●CO2 ゼロのゆたかな島マップ１：都市～都市近郊編

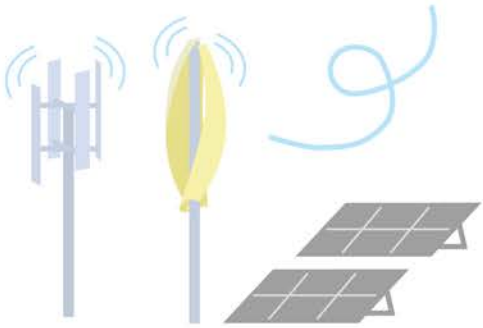
エネルギー

もっとソーラー発電を！

・全ての建物、道路にソーラー発電
・車や車庫の屋根、傘や洋服にも
・余っている土地を再生可能エネルギーに活用
・自然災害に耐えるソーラーパネル
・ソーラー発電を普及する補助金制度

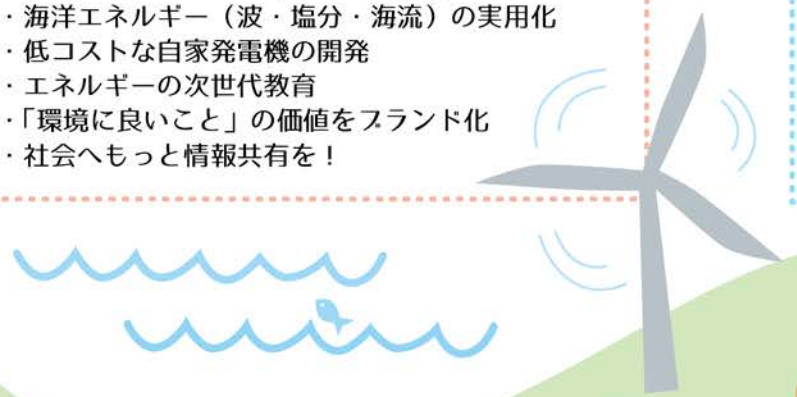
風力発電も！

・都会の丘の上に
・街角に小型風力発電

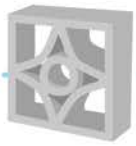


新しいエネルギーのカタチ

・エネルギーは買うものから作るものへ
・エネルギーマネジメントシステム（EMS）の普及
　：電力の見える化で意識向上
・自家発電、個人間で電気をシェア・販売
・ごみ焼却からエネルギー回収
・水素やヘリウムのエネルギー実用化
・海洋エネルギー（波・塩分・海流）の実用化
・低コストな自家発電機の開発
・エネルギーの次世代教育
・「環境に良いこと」の価値をブランド化
・社会へもっと情報共有を！



建築



直射日光を遮り風を活かす

・窓の光を自在にコントロール
・グリーンカーテンやすだれ、花ブロックで西陽を抑える
・建物に風の通り道を：窓、スリット、花ブロック
・屋根緑化や緑化面積増の義務化

自然に優しい素材を使う

・安全な塗料の開発：沖縄の強烈な紫外線、塩害、白アリ等を防ぐ
・地産資材を利用：輸送による CO2 排出量が少ない
・製造時の CO2 排出量が少ないコンクリートの開発
・使われていない赤瓦などを回収・リサイクル

ZEH（Net Zero Energy House）
ZEB（Net Zero Energy Building）
…室内環境を快適に維持しながら、省エネ＋創エネで、建物のエネルギー収支をゼロにする建物

BELS 評価
（建築物省エネルギー性能表示制度）
…建物の省エネルギー性能についての評価・表示制度

省エネで快適

・ZEH や ZEB が普及した街：公共の建物はもちろん ZEB
・太陽光パネルは生活必需品、DIY でさらに省エネリフォーム
・公共施設は断熱材や遮光カーテンを入れ、誰もが快適な場所に
・建築物省エネルギー性能表示制度（BELS 評価）を広める
・家を建てたり借りる時に BELS 評価をチェック
・沖縄の気候を理解して省エネの資材や設計を研究・開発
・省エネ建築を広めるための補助金制度
・ZEH や ZEB、エコ建築を知る説明会
・エコな家電を選ぶ

新しい公共交通

・バスをかっこよく＆バリアフリーに
・電動バス、たくさん乗れる２階建てバス
・シャトルバスで街を結ぶ
・ソーラーで動くトゥクトゥク
・モノレールを糸満～名護まで
・地下鉄や貨物列車の導入
・超低電力のリニアモーターカー
・海のフェリーが鉄道やバスを補う
・公共交通のバリアフリー化
・物流各社の荷物を地域ごとにまとめて配送

交通

自家用車の未来

・EV 車 ＋ ソーラーカーポート、
　EV ステーションの普及
・水素燃料車 ＋ 水素ステーションの普及
・シニアカーや１～２人乗り小型 EV 車の普及
・ゴルフカートのような車の小型化
・渋滞を減らす空飛ぶ自動車、ドローン移動
・カーシェアリング

移動のための手段

・「移動＝車」ではないという意識変革
・渋滞のない街、NO マイカーデー
・近所は歩く！仲間と街歩き、歩くとお店のポイントがつく仕組み
・自転車はおしゃれで便利と PR
・自転車専用道路：市内の 90%をサイクリングロードに
・電動アシスト自転車、電動キックボードやセグウェイなどの
　シェアサービス
・交通の課題の学びの場をつくる

交通の利用システム

・バスやモノレールに１日学割を！
・公共交通は街のエレベーター：安く、あるいは無料で！
・公共交通の情報や支払いはアプリで簡単に
・多様な交通サービスを統合（MaaS）して、サブスクリプション導入
　：タクシー、バス、モノレール、レンタルバイクが定額で使い放題
・ロードプライシング：通行税、例えば那覇市内の通行料２千円など

コンプリートストリート
…車のためだけでなく、多様な手段で快適に人々が行き交うような、街の社会空間として道路を機能させる考え方

まちづくり

移動が快適で便利な街

・コンプリートストリート：車道、自転車道、歩道を分けて、
　安全・快適に人が行き交う街
・快適な歩道：木陰やひさし、歩いて楽しい、バリアフリー
・自転車専用道路：市内の 90%を自転車専用に
・コンパクトシティー：駅から徒歩５分・半径１km 以内で
　お店や病院に行ける街

自然と共生し活気ある街

・街に大きな自然公園、並木通り、グリーンカーテン
・空き家や空き地を市が管理、市民と共に有効活用
・島全体に風が通るように建物を配置
・学校の緑化面積を増やし、生徒が緑を育てる
・市民菜園を増やす
・島の自然や生きもの、サンゴと共生
・地下室を作って災害対策
・市民を巻き込んだ街づくり
・市民が環境問題を知り、議論・発言がしやすい街
・市民の意識改革と、まちづくりの次世代人材育成
・ニュースや CM で、環境保全の技術を取り上げる
・沖縄が世界のエコリーダー

ごみを減らす

・買い物は投票：ごみの少ない物を選ぶ
・物を長く使い、物との上手な付き合い方を意識
・使い捨てプラスチックごみを出さない暮らし
・地産地消：県産品を選び、生ごみは肥料へ

エネルギー

再生可能エネルギー 100%

・自然は壊さず海や山で風力・太陽光発電
・島内でエネルギーの自給自足、自立分散型発電
・太陽光発電や蓄電池は地域の公共財
　：公民館や避難所等で共有
・太陽光を照明にする
・自然を壊さず発電できる仕組みの開発
・家庭で気軽に自家発電：例えば生ごみでバイオマス発電
・農地でソーラーシェアリング
・電力の売買のバランスを取る
・再エネシステムへの補助金

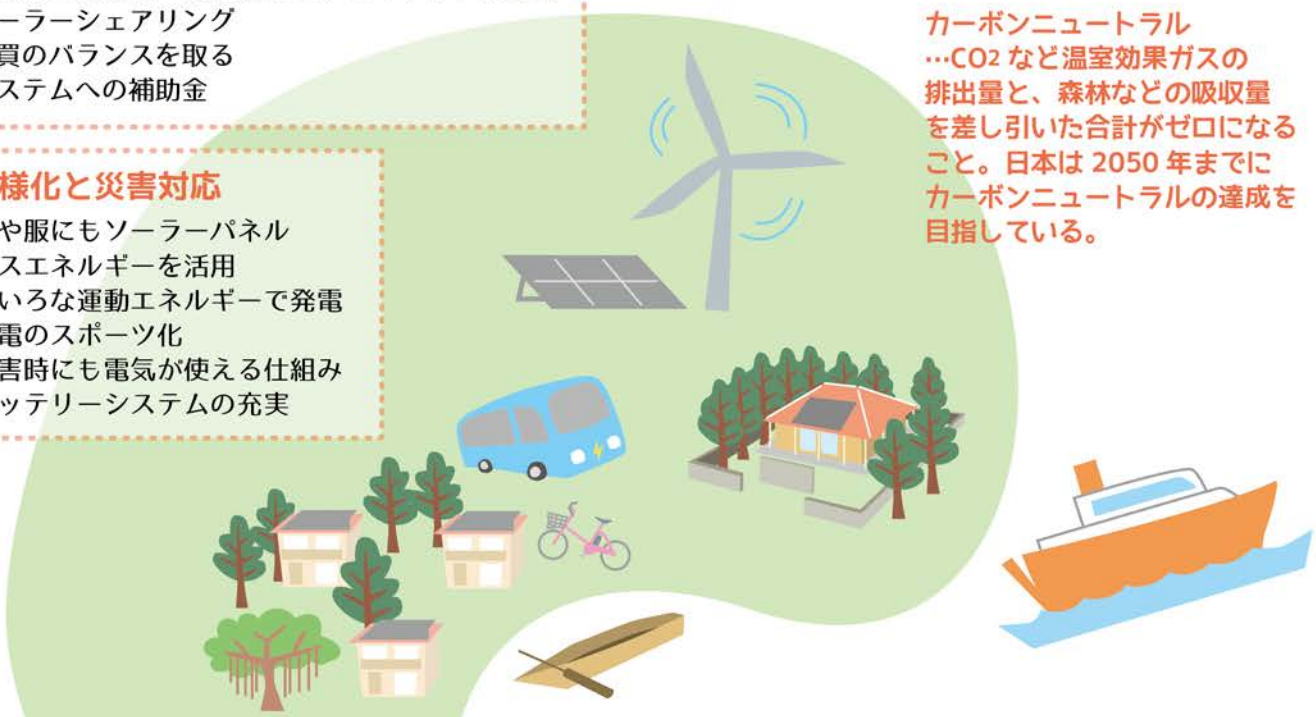
エネルギーへの理解

・エネルギーコストや省エネの見える化
・エコ暮らしで省エネを徹底
・エネルギー教育の充実
　：脱炭素・カーボンニュートラルへの理解を！
・市民でエネルギーを議論する場を作る

発電の多様化と災害対応

・車の屋根や服にもソーラーパネル
・バイオマスエネルギーを活用
・人のいろいろな運動エネルギーで発電
・自転車発電のスポーツ化
・台風や災害時にも電気が使える仕組み
・蓄電、バッテリーシステムの充実

カーボンニュートラル
…CO2 など温室効果ガスの排出量と、森林などの吸収量を差し引いた合計がゼロになること。日本は 2050 年までにカーボンニュートラルの達成を目指している。



建築

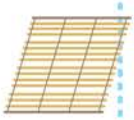
地域に合った省エネ建築

・島の建物は全て ZEH や ZEB
・公共施設や学生寮を ZEH・ZEB に！
・理想的な建物を体験・普及するモデルルーム
・世界の亜熱帯の伝統建築に学び、環境に配慮した住宅
・沖縄の伝統家屋や瓦など、地域文化を継承
・台風に耐える頑丈な建物

省エネ建築を広める仕組み

・省エネの工夫をテレビや SNS で普及させる
・BELS 評価や ZEH の認知度を高める
・ZEH への公的支援
・省エネリフォームへの補助金
・島しょ地域の特性に合わせた制度的な保証を行う
・観光税で省エネ建築の補助金に当てる
・優良物件の見学
・世界のアイデア集め、情報発信

自分で省エネリフォーム

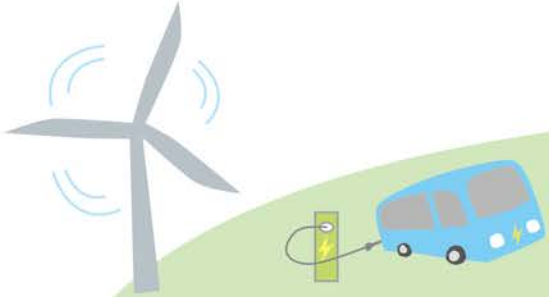


・自分の部屋や家から省エネ DIY
・すだれや花ブロックで日射を抑える
・日射や湿気、空気排出の効率化に対応する
・屋上と壁面緑化で日射を抑え、野菜栽培、CO2 吸収
　：気候変動による食料危機にも対応・建物資材の自給自足
・再利用できる建築資源を細分化しリサイクル率 UP
・廃材を使用した RC 資材

スマートシティ
…ICT（情報通信技術）を活用し、再生可能エネルギーの安定化を図ったり、地域の様々な課題の解決を目指す。都市だけでなく地方の自然と共生したまちづくり（スマートローカル）も含む。

空き家の活用

・空き家 Map の作成
・空き家をリノベーションしてお試し暮らし、空き家ホテル
・新築を減らし様々な形のシェアハウスへ
・空き家を使用しやすい法整備
・リノベーションサポーターとのマッチングアプリ



交通

温室効果ガスを出さない

・交通エネルギーは全て再エネ由来で
・電気や水素で走る車・バス・モノレール
・二酸化炭素を出さない電動バイク
・新しい乗り物：進化した人力車など

自家用車を減らす

・No マイカーデー
・通勤通学は乗り合いで
・徒歩や自転車を選択し、友達を巻き込む
・自転車道の確保とシェアサイクルの導入
・入学時に自転車貸与、スクールバスと自転車で通学
・車と公共交通で移動コストを見える化し比較
・車を島の公有財にする
・自家用車は世帯の台数が増えると購入金額を上乗せ

公共交通を使う

・行政が運営する公共交通、低価格や無料で！
・利便性の高いコミュニティバス
・全ての路線が一つの定期券で乗り放題
・目的地を共有して家の前まで来るオンデマンド小型バス
・小型 AI バスが最小のエネルギーと時間でみんなを運ぶ
・人の流れを分析して、効率的にバス停を設置
・年１回、住民と路線見直しワークショップ
・バス利用で店舗のポイント付与や割引を
・使いやすいバス検索アプリ
・小学生にバス利用の体験や学習を
・公共交通のイメージ UP
　：公共交通利用がスマート、おしゃれな乗り物
・交通の市民会議：住民の意見や希望を吸い上げる機会に

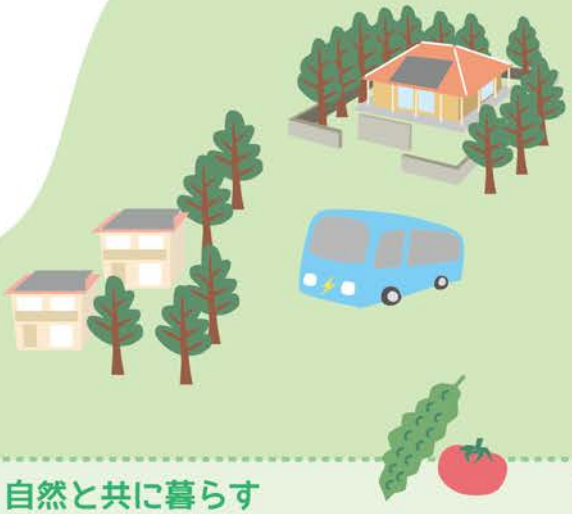
道路の環境整備

・自転車道の確保
・歩きやすい歩道の整備：高齢化社会への配慮、健康づくり
・緑豊かな散策路で歩くのを楽しく
・バスが遅れないよう専用ルートを

街から村へ、島から島へ

・エコ観光のイベント体験会
・離島観光は、効率的に集団でツアーを組む
・物資の輸送にはドローン等を使う
・コンパクトな電動飛行機
・船や飛行機は AI 自動運転で、物流コストを削減

まちづくり



暮らしやすく働きやすく

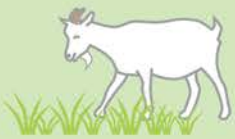
・リモートワーク（高速通信）の普及
・徒歩で必要な施設へアクセス
・コンパクトな街の空間を公共交通や自転車で移動
・郊外店を単発に置くより、便利な所に店舗等を集約
・中心地まで行きやすい道路、公共交通との接続が良い
・街の中は公共交通以外の自動車禁止
・スマートシティ、かつ人間らしさを残す
・高齢化社会に対応したまちづくり
・道路をコンプリートストリートへ
・移動式スーパーが充実
・病院に通院しなくても、オンラインで診察
・山の自然学校を「学校＋コワーキングスペース＋ホテル」に活用
・島しょ地域内でリサイクルの循環が回る
・少子高齢化で余った土地は有効活用
・新しいものはなるべく作らず、まちの「余白」を残す
・多くの住民がまちづくりに参画、理想のまちづくりを話し合う
・いろいろなまちづくり事例を情報収集
・理想のまちづくりに税金を使う

自然と共に暮らす

・みんな好きな場所に住み、
　高速インターネットで繋がる
・自然と共存、半農半 X で暮らす
・さとうきび以外の野菜も島内で自給
　：島外からの輸送費カット
・雑草対策は除草剤でなくヤギに食べてもらう
・「人と自然が豊かなまち」宣言をする！

気候変動への適応

・住民や小中学校への環境教育の充実
・テレビ番組などで環境教育を頻繁に行う
・お祭りやイベント化して環境を楽しく学ぶ
・気候変動への当事者意識を高める
・行政や自治体が気候変動に対して宣言、市民への機運を醸成



●参加者の感想レポート

■今回の島づくり会議に参加してみて、自分とは違った世代の色々な方の意見を聞くことができた。私は大学で環境問題について色々と学んできた。そんな中同級生たちとディスカッションをしたり、講師の話を聞いて自分の意見や考えを固めて今会議に臨んだ。私は島しょ部のグループに振り分けられたのだが、そこでは高校生の子が２人、大学院生の方が２人、社会人の方が１人と自分とは上にも下にも違う年代の人達がいて、そういった数年違うだけで触れる知識が違い、考え方や目線も違うのだなと感じた。具体的には、交通問題に関しては高校生の子たちは実際にどのような交通問題が起きているのか、運転をしていない世代なので聞いた話やニュースなどからしか判断できない。しかしそんな限られた情報の中でもフレッシュでそんな目線があったかとなるような新しい目線から意見を出してくれた。そして、大学生や大学院生といった車の運転をし始めて、そういった問題に関わり始めた世代からは、ライドシェアやバイクロードといった、現実的でより実現可能な案が出てきた。社会人の方からは、そんな情報があったのかと驚くような知識がたくさん得られて、例えば車から出るブレーキダストが健康にも影響を及ぼしていることや人力車を応用したパワードスーツなどで高齢者の移動を楽にさせたりなど、大人目線で知識的かつ何が求められているのか、社会に出た人からしか得られないような意見が得られた。私は、比較的現実的で、出る案も予算やその採算がとれるか、メリットに対してデメリットはどうかといったことを考えがちだったが、今回はみんなが実現可能的かというよりも沖縄がこうなったらいいなといった「夢を語る場」になったのが、今回の会議に参加してよかったなと思えるところだ。また、ディスカッションの材料として実際に環境問題に取り組んでいる企業や人たちの話を聞いて、今はそんな事が行われているのか、そんな開発をしているのか、と実際に社会でどのような取り組みが行われているのか最前線で取り組む人たちの生の声が聞けた。こういった情報は教科書やニュースなどでは得られないような貴重で価値のある情報だなと感じた。今後も、環境問題に関して多くの沖縄県民が興味を持ってアクションを起こせば、沖縄が世界のリーダーとなれるのではないかとこれからに期待を持てた会議でした。ありがとうございました。（20代、那覇市）

■2023年の沖縄県における災害級の台風や内地の猛暑などを経験し、今年は気候変動を感じる年であった。私はこれまでに環境に関わる勉強はあまりしてこなかったので、今回の「エネルギー、建築、交通、まちづくり」というテーマの会議を通して、自分の知識をアップデートさせつつも、何か自分達が提言できることはないのか、日常でできるアクションプランはないのかという思いで参加した。

会議全体を通して感じたのは、再生可能エネルギーにシフトや、ZEHの家に住むことや、公共交通機関をフル活用するなどはとてもいい取り組みだと思ったが、一人ひとりで実践するには経済的にも時間的にもコストが大きすぎるように感じた。そのため、発電方法、公共交通機関や公共住宅について再エネを利用し、多くの人に心地が良く、100年先にやっとよかったといえる施策を政府や自治体がエンパワメントしていくことが重要だと思った。それと同時に、環境教育をどの世代に対しても届けていくということも大事だと思った。

個人としてすぐに実践したいと思ったことは、建築の回で紹介されていた日差しと湿度のコントールであった。100均グッズで涼しい省エネの実例は実践していこうと思った。また、交通の回ではバスマップやバスアプリなど便利なツールについて知ることができた。しかし、今の住まいからは結局不便ということがわかったので引っ越し先が便利なら活用していきたい。

今回の会議を通して、ハワイやシンガポールのように住んでいる人にとって心地がよく環境負荷の低いまちづくりをしている実例を知り、自分達の住んでいる沖縄をどうカスタマイズしたら心地よく環境に優しいまちになるだろうかと考え話し合うことは楽しい経験だった。ハワイやシンガポールはこのような話し合いを通して理想を形にしたことを鑑みると、市民が積極的に意見していくことはとても大事なことなのだと実感できた。第４回の話し合いは理想のまちづくりをテーマに総合的な話し合いをしたが、そのときに痛感したことは、複合的になった瞬間に意見が出しにくくなることだった。逆に、「交通」などとテーマを絞ると深めやすいし意見しやすかった。今回の経験を通して、理想のまちづくりは色々なテーマについて深め、複合的にどうかを再評価するということが必要であることを学んだ。そのためには、繰り返し話し合い壁打ちし深めていく姿勢というのが大事だということがわかった。より良い社会にしていくために、意見も持つこと、選択すること、表明し行動していくという姿勢を今後も大事にしていきたいと感じた。（30代、西原町）

■島づくり会議は、前半に主催者側から各テーマに応じた有識者からの情報提供（ヒントの暗示）があり、その後に参加者みんなで沖縄がどうなっていて欲しいか考えるという構成であったため、情報提供された内容に多少流される感じも受けたが、とても意見出しはしやすく感じた。また、他のチームの状況は不明であるが、学生や社会人ばかりが偏ったり極端に少なかったりという感じではなかったため、全員が積極的に自分の考えを表に出せたのではないかと思う。

第１回会議では、沖縄と同じ観光立国であり島しょ地域であるハワイの状況を教わり、再生可能エネルギーの導入が高まることにより電気料金も下がるという事例を学んだ。特に沖縄は火力発電優勢であり、再エネの普及率がとても低い状況であることから、県民が再エネ導入によるメリットを知り、再エネに対する関心度の向上及び企業への理解で再エネ普及の動きは加速度的に進むものと考える。

第２回会議では、気候風土やライフスタイルに合わせた省エネの選択肢があることを学んだ。住宅を新築する人は限られていることから、個人的にZEH住宅を建てるという情報はあまり必要性や魅力を感じなかったが、すだれや日よけ等のDIYで借家でもお金をかけずに省エネができることは導入のハードルが低く、多くの人の対策としては適当であると思う。その他、日中外出している際は日差しが差し込む窓の遮光カーテンを全て締め切り、帰宅時に室内に熱が籠らないよう意識して行動しているが、これも簡単で効果的な取組であると考えている。

第３回会議では、車社会の弊害（CO2排出量の増加、交通渋滞発生、健康影響等）及び車ありきの街づくりになっている沖縄の現状を学んだ。特に、車移動をすることでプライベートな空間で過ごす事が多くなり、これが子どもの成長に悪影響になっている（公共の場でのマナー意識の欠如）という事象は衝撃を受けた。便利だから、子どもに歩かせるのがかわいそうだからという理由で車利用を続けている家庭にとって、この弊害は行動変容の動機付けには効果的であると考えられ、もっとこの影響をアピールしてもよいと思う。

第４回会議では、公共財の在り方、人々が暮らしやすい街づくりが実現したシンガポールの状況を学んだ。確かに住宅やショッピングモール、図書館等の公共施設、リモートワークができる場所等がコンパクトにまとまっており、さらに緑化や遊戯場所まである理想郷の様に思えたが、負の部分が紹介されなかったため、将来月面等で外的制約を受けて暮らす人々やロボットの住む世界の様な違和感を覚えた。昔ながらの伝統や文化を重んじる日本に受け入れられるかは疑問であるが、このような都市型の暮らしの需要が高い都心への導入には良い事例となるであろう。

全体を通して改めて感じたのは、だれか一人が頑張るのではなく、県民全員が無理せず少しずつ（できれば楽しみながら）CO2排出が少なくなるような生活様式に移行していくことが重要であるという事である。この会議に参加した方は多少なりとも環境問題に関心がある人ばかりだと思われ、同志であるがゆえに将来像に関して話が盛り上がったが、それでも環境に配慮した理想的な生活を現在行えている

かと言われるとまだ改善の余地があるかと思う（言い換えると改善に対するポテンシャルが高い）。それに加え、周囲の誰か一人でも多くの人を巻き込んで環境に対する意識変容を行うことが、最も大事なことではないかと感じた。人それぞれ求めているライフスタイルがあり、それに合わせた節電方法やCO2削減への取組の選択肢があることを知ってもらい、無理なく自分のペースでCO2ゼロの社会づくりに協力していくことをこれから意識して広めていきたい。また、ただ漠然と地球温暖化防止の為にCO2を減らしましょうと求めるより、皆が同じ方向を向けるような沖縄らしい宣言が必要な気がした。その宣言案を本会議の参加者で考える時間があってもよかったかもしれない。

なお、沖縄の一番の問題は、車への依存度が非常に高い事を改めて認識した。特に、学生の送り迎えを親族が車で行う事が当たり前の習慣を無くすだけでもCO2削減には相当な効果があると思われる。公共交通機関の利用促進及び交通網充実を図ることを、最優先課題とすべきと考える。そのためには、学校の立地を考慮した路線の見直し、定刻運行のための通学時間帯のバスレーン拡充、通学のための運賃補助（無料化）等、声を上げていきたい。沖縄の公共交通機関の交通網が十分に整備されれば、利用者も増え、駅の周りにマンションや日常的に利用するスーパー等が隣接する等、相乗的に不自由なく暮らせる地域が発展し、CO2削減に繋がるまちづくりに繋がっていくと予想する。

また、どの会議（例えば他のセミナーでも同様）でも思うことは、受講した直後は環境問題について敏感になったり理解したような気がしたり、何か行動に移さなければとかの使命感がある程度高まるが、時間が経過するにつれて記憶もモチベーションも下がっていくのはありがちである。この意識の継続のために、定期的に有益な情報発信や会議の存続を続けていくべきであろう。（40代、那覇市）

■この会議に参加し、講師の方からの話題提供で自分の知らない言葉を学ぶことができたり性別や年齢、職業が違う方たちと意見を交換したり、新しい考え方を発見する等たくさんのことを学んだ。この感想レポートでは第１回から第４回までを分けて説明する。第１回では、エネルギーについて学んだ。講師の方からの話題提供１人目では現在沖縄電力での電源構成は石炭が半数以上、再生可能エネルギーは約６％というほぼ化石燃料に頼っていることが分かる。沖縄に似ているハワイでは再生可能エネルギー100％を2045年までに達成目標としており、それに向け太陽光パネル設置や電気自動車の乗車数を増加するという事例が挙げられた。２人目では水素、アンモニアエネルギーなど電気エネルギー以外の発電やこのエネルギーの貯め方について学んだ。自然エネルギーと再生可能エネルギーを効率よく発電し蓄電することで今後の災害対策や普段の電力利用で安く済ませることができることを学んだ。私は、大学３年生の時に琉球大学のエネルギーなどを専門に学んでいる方のゼミを受けていたためこの回のエネルギーについては新たに学ぶことはなかったが、グループで意見を出す際にたくさんの意見が出ており、ソーラーパネルアイテムを流行させるという意見ではとても面白いと感じた。傘、洋服などにソーラーパネルをつけることで少しでも発電しスマホの充電などを行うことが気軽にできるのはとてもいい考えだと考えた。第２回は建築について学んだ。話題提供１人目では、2030年までの住まいの消費エネルギー目標について初めて知り自分自身の自宅では全く省エネルギーを行っていないことが改めて知ることができた。また、製造する際に排出される二酸化炭素の量がコンクリート住宅で１番多く、木造住宅の２倍二酸化炭素排出していることに驚いた。それに対し沖縄の家は台風などの災害に備えておりコンクリート住宅が多いので台風が多く来るところでは木造にするのは難しいと感じてしまった。この分このような地域ではZEH住宅を普及させ二酸化炭素をプラスマイナスゼロにすることができるのではないかと考えた。２人目では住んでいる人に合わせた省エネ方法やその事例について学んだ。お話を聞いていると講師の方自身も自宅で省エネを行っており、お金をかけないで今からできる省エネ方法、沖縄ならではの日光を利用した省エネなど紹介しており、自分自身でも簡単にできることが多くてマネしたいと考えた。第３回では交通について学んだ。話題提供の１人目では、沖縄県での移動手段の現状について、車依存での歩行者の弊害について学んだ。自分自身学校、バイト、買い物、遊びのすべてを車で

移動しているため歩行者の目線であまり考えたことがなかったため、交差点で歩行者が渡るところが無いなど初めて知ることができた。一応歩道橋があるところもあるが歩行者にとっては大変だと感じた。２人目はもっと詳しく交通について教えてもらい、コンプリートストリート、ロードプライシングなど新しい言葉を習った。自分が住んでいる那覇市で考えると通勤や退勤の際に渋滞が起きているため、その時間帯はロードプライシングを行うのが必要だと考えた。また、自転車専用、バス専用の道路を増やすことでこれらの利用が増えるのではないかと考えた。第４回では街づくりについて学んだ。シンガポールと沖縄のまちの違いを知った。いろんな人、例えば１人暮らし、家族で暮らしている、障がいを持っている、コロナ化によりリモートワークになった人などいろんな人たちに対応しているシンガポールの町がとても住みやすくてすごいと感じた。自分の話になるが現在自分の家の前にできる公園をどのようにしていくかのワークショップがありそれに参加して自分たち、その近所の方がこの公園に嫌な気分をせず暮らせるのか、近所の子供たちがどのように遊べることができるのか考えたいと思ったが、すべての日程に参加しないといけないという条件があり断念した。最後だけでもいいので参加したいと感じた。この公園はずっと子供たちがサッカーやボールを使用し、何度も迷惑だと警察、市役所に連絡をしていたためこれからも自分たちが暮らす家の前の公園なのでどうにかしたいと感じた。最後に、この会議を通してたくさんの知識といろんな人の考えを聞くことができとても勉強になった。このような機会を与えてくれた運営の方たちにはとても感謝をしている。ありがとうございました。（20代、那覇市）

■毎回違ったテーマで学び、４ヶ月間を過ごすことによって色々な視点から自分の住んでいる沖縄を見直し、実践する時間がありました。エネルギーのような規模の大きな問題から、個人で今日からでもできる地球にやさしい行動のヒントをたくさん得ました。専門家の方々にフランクに質問ができたのもとても貴重な体験でした。会議は企画、司会進行、講義・ワークショップの内容から参加者のフィードバックを受けて会議が毎回進化、パワーアップしていく過程も楽しませて頂きました。動画での振り返りもフォローしてくださりとても助かりました。ありがとうございました。日常生活にいると、環境のこと、地球のこと、気になりながらも本気で話せる友人、場がなかったこともあり沖縄を本気で良くしようと思う人たちに出会え、刺激を頂けたことが何より私の財産になりました。会議が終わった今は、どうやって学んだことを人と共有していくか自分の生活に生かしていくかを模索しているところです。このような貴重な機会を作ってくださった関係者の皆様に心から感謝しています。また機会がありましたら、ぜひ参加させて頂きたいです。

【学んだこと】県内の車の稼働を減らすことが脱炭素に大きく影響する。交通渋滞問題解消が鍵。→やってみたこと・気づいたこと：車なし路線バス生活を「子連れ妊婦」の立場で４ヶ月間経験してみました。職場までの移動、子供と遊びに行く際、ほぼ毎日路線バスを利用しました。そこで気づいた、路線バスの良さや不都合な点。お年寄り、子供、障がい者、子連れ、妊婦、外国人、さまざまな人が使う公共交通機関をもっとたくさんの人が気軽に、快適に利用してもらえるように改善を提案します。(提案は最後に)

【会議に参加したことによる自分の変化】今までは「環境問題は何か特別なことをしないといけない」のような気持ちがありましたが一人一人の毎日の生活行動、小さくても日々の積み重ねが何より大切だなと感じました。自分の生活で改善した点は、・家での省エネ（電気をこまめに消す・カーテンの開け閉めで部屋の温度を調整するなど）・ごみを減らす取り組み（ごみの分別、コンポストなど）・洗濯洗剤、食器、風呂場の洗剤を固形石鹸に変えた・家族全員分のマイボトルやMY容器を揃えた・買い物するときもなるべくローカルなものを。よく考えるようになりました。やってみた結果、地球にやさしい生活は自分の経済（節約）や精神的にも良い影響があることを実感し、省エネ・エコな生活の良さを多くの人に実践してもらいたいと思いました。

【社会全体のこと】行政、企業、団体、個人でそれぞれ素晴らしい取り組み、活動をしている方はたくさんいるのだなという感想です。けれど、「頑張っている人」と「興味のない人」の温度差が一番気になる点でした。今まで環境問題に関わってこなかった人が他人事ではなく、「自分も少し行動してみよう」という気持ちに持っていくこと、個人個人の意識を育てることが環境問題解決への近道なのではと思うようになりました。そのために必要なのは今ある情報をまとめる・発信する・共感してもらう・行動に移していく仲間を増やしていくことが大切なのではと思います。

【今後、行いたいことや参加してみたい活動】

・SNSによる「発信」で沖縄環境革命！：今はSNS戦国時代とも言われているほど、若者から大人まで、世界中が繋がっているネットワークを誰でも、無料で利用できるという社会になりました。一瞬で世界まで情報を届けられるこの流行りのツールを利用しない手はないのではないかと思っています。沖縄はたくさんの問題を抱えているのは確かですが、それ以上に特別なものをたくさん持っていると思います。素晴らしい自然、世界でもトップの知名度・注目度、観光地としての人気、リピーター率、インフルエンサーの数、環境活動をしている団体や芸能人、人々の沖縄愛。行政、企業、個人、県外・海外からの観光客を繋いでいくためには拡散力、スピード、巻き込み力の高いSNSを利用していくことを提案します。

・やってみたいこと：皆でアイディアを出し合いながら実際にSNS発信を遂行していくプロジェクトがやりたいと思いました。＜アイディア例＞１.子供向け教育動画製作（YouTube）　２.YouTubeによる活動の経過発信（今回の会議のようなアイディア出しから、企画の遂行(自治体・行政・企業などにアイディア・意見書を提出→結果までを追ったリアルな記録など）　３.インフルエンサーを招いたPRイベントの開催　４.#ハッシュタグキャンペーンによる沖縄の環境問題・活動(アクション)のまとめ　などなど。

【脱炭素社会のためにぜひ実現してほしい施策】

・バス環境の改善お年寄り、妊婦、障害者、外国人なども含め皆が使いやすいバスの環境づくり。時間通りに運行し、通勤にも使えるようにして欲しい。

①バス停までの道のり：日差しが強くバス停まで歩くのが大変→町の緑化（日陰）・グリーンカーテンなど

②バス停環境の整備：日陰、ベンチ、バイリンガルの情報、ゴミ箱

③車内レイアウト：段差のない入り口／ベビーカー・自転車、スーツケースなどの荷物置き場／キャッシュレス決済（アプリ内）／Helper席：運転席の後ろの席を「お手伝いできます」の人の席にする。

④沖縄路線バスアプリ：バスの利用しやすさ改善／乗り換え検索／マップ（YahooorGoogleMAP提携）／バスは今どこ／料金案内／支払い　など→乗客の対応に追われる運転手さんの負担も軽減。

・環境問題の授業を義務化：今回の会議のようなディスカッション形式の“授業”を学校でもどんどんやってほしい

・沖縄の環境問題に観光客を巻き込む：那覇空港での環境教育ブース、マイボトルの販売など／各ホテルにウォーターサーバー設置義務化

・気軽に立ち寄れるリサイクルセンター　・ごみ回収方法の改善→町にゴミ箱を設置して欲しい

（30代、北谷町）

■今回の島づくり会議に参加して、脱炭素社会への情熱を抱く多くの若者たちとの邂逅は、まさに素晴らしいものでした。彼らと共に沖縄の未来を編み上げる冒険は、楽しみに満ち、ワクワクが絶えませんでした。若い仲間たちから繰り出される新鮮で斬新なアイデアには賛同しつつも、時折、「でも現実的に難しいんじゃないかなぁ」と、できない理由を探している自分にも気がつきました。「おじさん化」した自分を嘆いてしまう瞬間でもありましたが、同時に、後ろ向きな考えをふり返り、新たな視点を見つけ出すことができました。こんなにも多くの若者たちが、沖縄の未来を真剣に考え、自分の声を発信している姿に立ち会えて、非常に頼もしく、心強く感じました。

＜会議に参加したことによる、あなたの気持ちや考え、行動などの変化＞

まず、各回において、脱炭素に向けた新たな情報や知識が得られて、大変勉強になりました。その中でも、すぐに実践できることとそうでないものとがありました。無理は続かないと自覚していますので、まずは個人でできることから取り組んでいこうと思いました。例えば、行動のチョイスがある場合、２回に１回はエコな行動を選択するなどです。私自身が実践できそうなエコ行動としては、時間的

に余裕がある時はマイカーではなくバスを利用するというのがあります。島づくり会議が始まってから、何度か実践しています。バスの車窓から街並みを眺めることは楽しいです。バス停まで歩くことで歩数も増えますし、健康にも環境にgoodです。ぜひ、県民に広げていきたい取り組みの一つです。
＜今後、行いたいことや参加してみたい活動＞
　会議メンバーを中心に、アクションする機会があるといいなと思います。具体的なアイデアは持っていませんが、今回の学びを活かして、何かテーマを掲げ、共に学び続け、その成果を県民に周知するイメージです。第２回、第３回と会議が開催されるのであれば、そのメンバーも含めて、ゼロ会議コミュニティができると楽しそうです。
＜脱炭素社会のためにぜひ実現してほしい施策＞
　車通勤を公共交通を利用した通勤に置き換えることは一定程度、有効ではないかと思います。那覇市内オフィス街へ車の乗り入れを規制するような施策や、強制力を持った「ノーマイカーデー」の実施などが思い浮かびます。県外や海外の事例も多くありますので、県や関係者が本気を出せば実現できるのではないかと考えます。そのためにも、まずは自分自身が実践することが重要です。沖縄県民の「車がなければ生活できない」というマインドを少しずつ変えていけるように、貢献していけたら嬉しいです。
＜気候市民会議をあなたのまちで実現するためのアイデア＞
　最近は、環境問題に関心のある中高生や大学生は増えていると思います。各地域で、地域版ゼロ会議を行うというのはどうでしょうか。その際、ごみ拾い活動を行っている団体や環境保護に関する取り組みを行っている組織などに参加を呼び掛けると興味を示してくれそうです。そこに大人も加わり、今回のゼロ会議のように幅広い世代が同じテーブルについて話をする機会があるといいなと思いました。今回ゼロ会議に参加させていただいて、このような場があることは本当に尊いことだなと実感しましたので、多くの方に体験していただきたいです。（40代、名護市）

■私にとってこのような会議の場は初めてだったので緊張していましたが、グループワークなども多く、常識にとらわれないアイディアを多く聞くことが出来てとても面白く、良い学びになりました。年齢や性別も様々で色々な環境にまつわる経験を聞くことが出来たのも良かったです。更に、話題提供して下さった方々の話は、普段の学校生活では聞くことが出来ないような初めて聞く話ばかりでとても興味を持って聞くことができました。この経験を今後の生活に生かし、他の人に伝えるなどして、会議で沢山出たアイディアを少しずつ実現できるように行動していきたいと思います。
　大学は環境学科に進むこともあり、環境等の知識はある方だと思っていたのですが、色々な分野の人の話を聞くことによって数え切れないほどの発見をすることが出来ました。特に建築はほとんど知識が無かったのでとてもためになりました。さらに、この会議を通じて、太陽光発電や街中に潜んでいる環境に優しいものを再確認する事ができ、マイボトルやエコバッグを持つなどの基本的で始めることが手軽なものから初めて行こうと思うことが出来ました。
　今後はこの会議の学びを活かして、会議の中でお話があったボランティア活動や自らが行動する場があればレベルアップとして参加していきたいです。さらに、最近よく歩いていると見かける、ロードバイクにも挑戦して、脱炭素社会の実現に協力していきたいです。
　モノレールやバスのアプリを使いやすく改良し、車社会脱出というアイディアを実現して欲しいです。会議の中でも話が出ましたが、私もバスのアプリを使うことがあり、使い勝手があまり良くなくめんどくさいと思ってしまうので、改良することで使いやすくなり、気軽にバスやモノレールを利用する人が増えると考えました。
　もう一つは移動手段として船を増やすというアイディアを実現出来れば面白いと思います。沖縄は海

が綺麗で観光としても有名なのでその長所を活かし、船という移動手段を増やすことで環境と観光を両立する事が出来ると思います。

この会議のような活動を張り紙で宣伝したりして、興味を持ってもらう事が良いと思います。私も高校で張り紙を見るまではこの会議のことを知らなかったので関心を持ってもらう良い方法になると思います。

この会議に参加した４ヶ月はとても多くの学びがあり、発見がありました。このような会議の場に参加させていただきありがとうございました。（10代、那覇市）

■今回、CO2会議に参加して最初はグループ内での話し合いに積極的に参加できず、自分の意見もはっきりと言えなかったのですが、グループファシリテーターの神谷さんがグループみんなが意見を言いやすいよう、一人一人に話を振ってくれて、グループ全員が意見を言えるような雰囲気が出来上がっていてとても意見を発言しやすく、このようなイベント初参加の私にとってはよかったです。

第一回のCO2会議では、中川鉄水さんによる最新の科学技術を利用した沖縄でできるエネルギーのため方と宮城康智さんによる沖縄のエネルギー使用の現状とハワイのエネルギー使用の現状を比較し、沖縄県民である私たちにできることについて教えてもらいました。それに対して私たちグループでは、省エネ面では「図書館など公共施設（涼しい場所）を昼などの暑い時間帯に利用する」、「バスやモノレールを利用し、一人ひとりが使うエネルギーを減らす」といった意見が出ました。エネルギーを貯めるという面では、「ソーラーパネルをいたるところで使う」、「建物の断熱性を高め、太陽光パネルの設置をする」といった意見が出ました。それらを実現するために今からできることは、直射日光が家の中に入らないよう、グリーンカーテンを設置したり、家の熱を逃がすために打ち水をするなど工夫をしたり、遊びに行くなどで遠出をするときは個人で行くのではなく、みんなで一緒の車に乗ったり、公共交通機関を利用するといったエネルギーについて考えた行動をすることが大事だと思います。

第二回のCO2会議では、松田まり子さんによる省エネ住宅と住み方と、村山創さんによる日本の省エネ制度、CO2排出を削減できるZEH住宅について教えてもらいました。それに対して私たちグループでは、「100年もつ住宅を設計する」、「LED照明を導入し、省エネ住まい100%」といった意見が出ました。それらを実現するために今からできることは、台風などの災害が来てもびくともしない丈夫な家を建て、壊れたら直す（修理）そして、限界まで利用した後、廃棄する。という４つの過程で排出するCO2の合計が０になる社会にするために、ZEH住宅の存在とメリットを知っている人がアピールし、多くの人が自然に優しい建物を立てやすい状況を私たちが作ることが大切だと思います。

第三回のCO2会議では、谷田貝哲さんによる車社会沖縄が抱える環境問題の解決策と課題についてと、石垣綾音さんによる全ての道路利用者のニーズのバランスをとりつつ、安全に人を移動させ、老若男女問わずすべての人のために機能する道路を作るためのヒントを教えてもらいました。それに対して私たちグループでは、「自動車を使わずとも行きたいところに行くことができる道路を作る」、「歩くのが楽しい街つくり」といった意見が出ました。それらを実現するために今からできることは、行政が運営する真の公共交通を作ってもらえるよう請願し、歩くことを助ける道具を開発するといった国の制度を変えたいという思いを一人一人が持つことが大事だと思います。

第四回のCO2会議では、小野尋子さんによるこれからの日本の住みやすい都市の生活模様について法律も交えつつ具体的に教えてもらいました。それに対して私たちグループでは、「学校や都市の緑化面積を増やす」、「生ゴミを堆肥化する」といった意見が出ました。それらを実現するために今からできることは、自分の家で植物を育てたり、学校の授業の一環として生徒が育てることや、生ゴミを堆肥化する専用の施設を作れるよう、堆肥の需要を高め、政府に提案出来るようにならなければいけないと思いました。

四回のCO2会議を通して、普段の生活では知ることのできない沖縄が抱える環境問題の深いところまで学ぶことができてよかったです。今回、学んだことで高校生である私が脱炭素社会を目指すために、できることは多くあるのだとわかり、自分の努力次第で脱炭素社会を達成できるかどうかが決まるのだと思いました。だから私は、将来住みやすい暮らしができるよう、CO2会議で学んだ解決策を実際に私自身もやってみたいという思いがより一層強くなり、最近は少し離れたところでも歩いていくようになりました。このイベントに参加して、ものの見る目が変わり自分の行動も変えることができてとてもよかったです。ありがとうございました。（10代、那覇市）

■今回この会議に参加してみて初めて会うメンバーだからこその真剣な話し合いができた様に感じました。今まで学校で習ってきた様なおおまかな話題や知識ではなく、実際に環境と向き合っている大人たちから聞く話には、とても考えさせられるものがあり、こういった話をもっと教育という場で学ばせて欲しいと思ったし、今実際に学校等で取り組んでいる調べて、書く、という作業に限界を感じました。この会議で使われていた単語には初めて聞く様な単語も多く私自身がもっと知らないと！という気持ちになれました。また、そういう単語を学校では、聞けないという今の教育にも問題を感じました。今回の会議で脱炭素社会を現実的なものにするには、私たち一般の人の知識が圧倒的に足りていないと思いました。社会を構成する一般の人々が意識すると言っても、知識がなければそれは結局他人事としか捉えることのできない物語の様なものにされてしまっているのが、今の日本だと思うので、こういった知識の共有をしてくれる様な場が学校で欲しいと思いました。

また、私はすだれはや花ブロックなどの工夫が節電にも結構な、効果があることを講師の話を聞いて実際にもやってみたいと思いました。そういう様な少しの工夫で環境をより良くすることができることは、他にも多くあると思うので一人一人が始められる様な環境への貢献としてできることをもっと知りたいと思いました。交通の面でも私は内地にいる際は、よく利用しますが沖縄でのバスをあまり便利に思えず利用する機会は、ほとんどなかったのですが今回の講演を通してグループで話し合いなどを通してバスにももっと自由な工夫があることでもっと利用しやすくなってくると思ったし、こういう様なバスなら利用してみたいとも思いました。学校じゃない環境での話し合いだからこそ引き出せた答えもある様に感じました。こういう様な環境は、興味のある一部の人でなく、国民全員がそういう場があるということを知り、課題に対するコミュニケーションを持てる様にすることが向きあうということで、考えて実行できるきっかけを与えてくれるのではないかなと思いました。私も普段から脱炭素など特別興味があるわけではなかったけど、ほんの少しの好奇心がこういう様な意見が聞けて考えることのできる場につながっていて本当に良かったと思うし、ニュースなどでそういう話題に敏感になれたのは、この機会があったからだと思います。今の日本には課題がたくさんあると思うけど国民が興味を示せないのは、自分の持っている知識に自信が持てない人が多いからだと思う。だから一人の人が一つの分野に興味を持ち、知識を持つ。これができればもっとも向き合える人が増えると思うし考える人も増えると思う。だから、私は、具体的な対策というより今回の様な場をもっと設けてもっと宣伝していくことが解決につながっていくんじゃないかなと思いました。（10代、与那原町）

■私は大学で省エネや創エネについて学び、これからの社会に求められるものであり、そして必要になるものだと考えました。そうした中で、このような県民会議があると知り、学びを深めることが出来るといいなと思い、大学の仲間と一緒に参加させて頂きました。

会議では、エネルギー・建築・交通・まちづくりと４つ全部に参加しました。その中でも私が印象に残っているのは建築でした。講師として、村山さんと松田さんをお招きし、話を聞いた。村山さんの話では、「BELS評価」と言うものを初めて知った。「BELS評価」とは、一目でその建物の省エネ性能を表す指標であり、来年４月からこの制度が義務化されるというものであった。私は省エネ住宅に興味が

あったものの初めて聞くことであったので、この評価制度のことを知りとても関心を持った。この評価制度が義務化されると、どの建物にも省エネ性能が表示されることにより、今まで関心がなかった人も関心を持つようになると思う。また企業となると社会的な目として、この企業の建物は省エネ性能が高いことから、社会貢献しているなどと言った、企業評価にも関わっていくことでさらに省エネへの関心が加速していくのではないかと思いました。

また、松田さんのお話の中では、どのような生活スタイルでも省エネは可能だということを学んだ。私の頭の中では、うっすらと質素な生活をすることが省エネにつながるのだろうといった漠然とした勘だけがありました。ですが、松田さんの話を聞いてそうではなく、その家族環境に合った省エネをしていくことが出来ることを学んだ。郊外型立地であると、最大限に自然エネルギーの活用をすることで電気を使わない省エネな暮らしをすることが可能であり、都市型立地であると、自然エネルギーが使えない分高効率設備の導入や日射熱の侵入防止によって省エネが実現できることを学んだ。その中で印象に残っているのが、「省エネとは、我慢するのではなく、暮らしを楽しみながらもエネルギーを減らしていく」この松田さんの言葉が心に残った。やはり、継続的にやっていかないと省エネは意味がないので、無理のない範囲で長くやっていくためにも、楽しみながらやっていくことが大切だと気かされました。

最終回のまちづくりでは、エネルギー・建築・交通の総集編のような会議になった。やはり、CO2削減していく中でどれも欠かせない存在であり、真剣に向き合っていかなければならないと感じた。私は、沖縄県が日本の中でも引っ張っていくような存在であってほしいと思う。それは、日本の中でも「車社会」「鉄筋コンクリート住宅」「沖縄電力しかない電力源」等、課題が多くこのままでは、この沖縄はどうなってしまうのだろうと不安だからだ。その為にも、様々な人に興味を持てっもらい関心を高めていってほしいと思う。私はこの県民会議に参加してとてもよかったと思う。普段では関わらない高校生やもう社会の一任として働かれている社会人の皆様と様々な意見交換が出来て良い経験となりました。これからも、よりよい沖縄にしていきたいと思っているので、アンテナを張って勉強していき、いつか沖縄の役に立てるような人材になっていきたいです。（20代、西原町）

■８月から11月まで４回の会議すべてに参加しました。沖縄で脱炭素社会を実現するため、どのような現状や問題があるか。前半は有識者による話を聞いて、後半は沖縄の特色に合わせた各グループでの討論、という形式でした。

まず各有識者の方々の話が大変に面白かった！環境問題、温暖化対策を自分なりに考えてみても、本を読むだけだったので、この島固有の問題が見えてきませんでした。しかし今回レクチャーされた方々は、皆さん沖縄で活動されている方であり、身近な環境問題がとてもよく見える話をしてくださいました。

亜熱帯の離島という、沖縄の自然環境に合わせた住宅であったり、火力発電所が主となる沖縄のエネルギー問題であったり、日差しの強い環境でいかに車社会から多様な交通機関へ変わるか、シンガポールやハワイの取り組みなど、沖縄から環境を考えていくという、この会議の趣旨を踏まえた適切な講師選定であったと思います。

また４～５人のグループに分けて、各グループにファシリテーターを配置して進行する、という方法も良かったと思います。初対面の人が集まりますし、それぞれの立場や知識、問題意識も様々です。そこにファシリテーターが入ることで、円滑に議論を進めたり、積極的に質問させたり意見を引き出したりと、大きな役割を果たしていました。

グループでの討議と、近未来と50年後の未来を描く発表も面白かった。参加者に学生や若い方が多く見受けられ、地球環境の変化を肌で感じる世代ですし、これからの地球を担ってゆく立場でもあるので、大変心強く思いました。私は大人の参加者として、このような温暖化の進行を許してきた立場にあ

り、どうしたら脱炭素社会へ移行できるか、大量の生物の絶滅を食い止められるか、責任を感じました。

遠い未来にこうなっていたらいいな、と夢を語り、近未来へ向け、ではどんな道筋を作っていこうか。この二段階で考えさせる試みはとても良かったです。理想は大きく描き、しかし出来ることを足元から一歩ずつ。それが大量生産、大量消費を是としてやってきた20世紀文明から、必要な分を必要なだけ作り、なるべく再利用するという、地球資源の限界を知った21世紀の私たちが変えていく生き方の変化です。

今後もこのような会議が開催されることを望みます。歩くことや自転車、公共交通など、脱車社会へ向けての取り組みも始めたい。太陽光パネルを生分解性の素材で作る研究、人糞や家畜の糞の利用など、地球環境に合わせた暮らし方、産業を支援する取り組みにお金を払いたいし、税金も投入して欲しい。シンガポールなど、先進的な街づくりをどんどん学んで、沖縄の花ブロックを利用した日射対策といった沖縄発の環境づくりをして、観光客に沖縄でエコな社会を学んでもらえるくらいになれたらいいですね。そのためにも、沖縄のすべての道で自転車の走るレーンを設置し、歩けるように木陰や日除けを作り、風を利用した家づくり等。行政や科学技術に頼るだけではなく、このような気候市民会議を通して、私たち自らどのような社会に暮らしたいのかを考え、声をあげて、行政や産業、科学研究を動かしていきましょう。今回は沖縄で自分の暮らしを見つめ直すよい機会をいただき、本当にありがとうございました。（40代、那覇市）

■私はこれまでに島づくり会議のような市民会議に参加したことがなかったので、市民会議に参加することが出来て、そして大学院生や大人の方と意見を交わすことができて、とても嬉しかったですし大きな学びの場となりました。また、私は気候変動については学校で習った程度しか知らなかったので、各回でその分野のスペシャリストからどのように気候変動にアプローチできるのか、という学校では学べなかったことを詳しく知ることができて、貴重な経験となりました。

私はこの会議に参加するまで気候変動について詳しく知っているわけではなく、あまり知らないからこそ、どこか遠い話に感じていました。しかしこの会議に参加して、現在の暮らしと気候変動について考えていくうちに、気候変動は私たちに影響があることで、私達のちょっとした積み重ねがより良い社会を作っていくのではないかと、気候変動についてより自分ごと化することができるようになり、気候変動に取り組む意欲が高まったと感じます。

特に私の中で考えが大きく変わったと感じる回は第３回の交通の回でした。私はこれまで、沖縄は車社会で渋滞が多いことや車を使うことで二酸化炭素の排出、気候変動に繋がっていることが問題であるため、公共交通機関や自転車、徒歩での移動がもっと推進されるべきだと考えていました。そのような中で、講師の方の“車中心社会になってないか？なぜ車が交通手段として便利なものとなっているのか？”という問いをきっかけに、現在の社会は車中心の世界になっており、渋滞しにくいかなど、車に乗る人にとっての便利さが追求されているということに気づきました。そして、その弊害として歩行者にとって歩きにくい道路になっている等の現状があるということ、そしてそのことが、車以外の交通手段が普及しない要因となっているという考え方を知り、公共交通機関や自転車、徒歩での移動を更に推進することと同じくらい、公共交通機関や自転車、徒歩での移動が人々に移動手段として選択されるように、歩きやすく自転車で移動しやすい道路を作ったり、日陰を増やす等のまちづくりを行う必要があるという考えに変化しました。

今回初めて市民会議に参加して、また自分とは異なる年代層との対話をする機会を通して、行政に私たちの意見を伝えることや多様な人との意見交換の重要性を改めて感じました。そのため、より多くの意見を行政に伝えてみたいと考え、こども家庭庁が実施している「こども若者★いけんぷらす」に登録し、アンケートに回答しました。今後はこの活動のオンラインの議論に参加したり、他にも市民会議な

どの興味を引かれる面白そうなイベントがあれば参加していきたいと思います。また、初めてで緊張することでも、意外と上手くいくという経験を積めたので、その体験を活かして興味を引かれたものには躊躇無く積極的に参加していきたいと思いました。そして、気候変動についてエネルギー、建築、交通、まちづくりの４つの観点から考えるという今回の経験を活かして、近場に行く際はできる限り歩くようにしたり、公共交通機関や自転車を移動手段として積極的に活用していきたいと思います。

脱炭素社会を実現するために、私は大きく分けて２つのグループにアプローチしなければならないと考えています。１つ目は市民へのアプローチ、そして２つ目は企業へのアプローチです。前者へのアプローチ方法としては、市民の二酸化炭素排出量を削減するために、自動車以外の移動手段である公共交通機関や自転車、徒歩を利用することを奨励することが良いと思います。そしてそのためには、日陰や歩行者のことを考えた歩きやすい街作りやバスの使いにくさを解消するためのアプリ開発や遅延を防止するための根本的な問題解決が重要になってくると思います。また、最近レンタル自転車の設置が急速に拡大していますが、自転車利用を促進するためには、加えてヘルメットの貸出や自転車専用道路の普及が必要だと思います。そして、交通面だけでなく、ゴミの分別を強化してゴミとして燃やす量を減らしたり、太陽光パネル等の各家庭での再生可能エネルギー利用を促進するための政策を是非実行していただきたいです。

後者へのアプローチとしては、二酸化炭素を排出した分だけ損をするという仕組み作りをすることが重要だと思います。二酸化炭素の排出は気候変動の観点からマイナスなことですが、そのマイナスなことをしながら利益を上げている企業が現状としてあると思います。そのような、社会にとってマイナスなことをしながら利益を得ることが出来るという構図を改善し、社会にとってプラスになることをしている人が得できるような、いわゆる炭素税のような施策を実現して欲しいです。（10代、那覇市）

■僕は気候市民会議に参加して、沖縄は移動について自家用車に依存した車社会から、公共交通や歩行者を中心としたクリーンな島であるべきだと考えました。暮らしやすい街についてのアイデアを、交通のテーマを中心に提案します。

会議に参加後、街を散歩するときに建物の造りに意識するようになり、様々な課題が見えてきました。おもろまちを散策すると、幹線道路沿いの店の前は駐車場が広がる造りで歩行者は入りづらいです。地域内はオフィスビルや商業施設等が立ち並びにぎわっているが、これらは車での利用を前提に作られており、車の流れを優先したまちづくりになっているそうです。そのため道路を挟んだ目の前の目的地であっても、歩行者は数少ない横断歩道まで何百メートルも遠回りさせられることがあります。おもろまちは、歩行者が「車道という分離帯」に邪魔されることなく自由に動ける街にすることでより賑わうと考えられます。

沖縄県内では各地で朝晩の通勤時間帯に深刻な交通渋滞が発生しています。また休日は観光地の多い本島北部方面の一本道で、慢性的な渋滞が発生しています。年々増加する交通量に対応するために県内各地で道路拡張工事が行われているが、なかなか解消できません。むしろ走りやすい快適な道路を作るということは、自家用車の利用が増加して、より車社会に依存してしまうことにつながるとも捉えられます。会議で議論していくうちに、そもそもの車の数を減らすことが交通渋滞の解消につながる近道であると気づかされました。僕は都市部の交通渋滞を解消する手段として、特定の道路や地域、時間帯における自動車利用者に対して課金するロードプライシングの導入を提案します。交通網が整っているゆいレール沿線地域の道路を中心に、イギリス・ロンドンの政策を参考にして通行料2000円という強気の課金を行うということです。ロードプライシング導入と同時に、バス路線の編成や公共交通の運賃引き下げ等を行い、車に依存しない環境づくりを行ってほしいです。公共交通機関の運賃は近距離の移動であれば、自販機の水100円程度のお手頃価格であるべきだと考えます。

公共交通機関について、県内で伸びる路線バスに注目しました。今まで沖縄の路線バスは、交通渋滞が激しいため時間通り来ない、車内は混雑していて乗り降りしづらいから不便だというマイナスなイメージがあり、ほとんど利用したことがありませんでした。会議に参加した身として、改めて路線バスの現状を体感しようと思い、不便さを覚悟しながら、先日首里城から国際通りまでバスを利用しました。交通量の少ない日中に乗ったということもあり、バスは時間通りに到着し乗客は数人ほどで、とても快適に移動することができました。実際に路線バス体験することで、「思っていたよりも便利」という発見がありました。今後は外出するときに家族が運転する自家用車だけでなく、路線バスの利用も選択肢に入れます。また「不便そう」という思い込みで公共交通機関をほとんど利用したことない人も、一度乗車して便利さを体感してほしいと考えました。

「歩道に日影がほしい。公共交通の運賃が安くなってほしい。自転車も載せられる路線バスが走ってほしい。」会議に参加して、身近な課題の発見から理想の街づくりまで、様々なアイデアを交わして、得ることができました。また市民一人一人が声を上げることが豊かな街を形成するにつながることを学びました。今回の気候会議は、同じ市民目線で街づくりについて考えを深めることができる貴重な機会となりました。今後もまちづくりに関するイベントがあれば積極的に参加して、人が主役のまち実現に向けて発信していきたいです。（10代、那覇市）

●おわりに

今回の会議を終えて、沖縄県のゼロカーボンに向けた可能性を感じることができ、とても嬉しく思います。参加者の感想には、「教科書やニュースなどでは得られない貴重で価値ある情報」「特別なことをするのではなく、小さくても日々の積み重ねが何より大切」「気候変動をより自分ごとにできた」などの声がありました。また、このような形で市民同士で話し合うことについても「多世代で話すことで視点が増えた」「自分達の地域について議論することは楽しい」「このような場をもっと設けていくことが解決に繋がる」など、今後も市民全体で学び対話していく場を設けることの重要性が感じられました。今回は高校生以上を参加対象にしたことで、高校・大学に通う10～20代が半数超を占め、そこに社会人が加わり、多様な世代が同じテーブルで議論できたことも新鮮でした。特に若い世代からは、意見を発信することの重要性を知り、もっと社会に意見を言おうと思ったという参加者もおり、積極的に行動したり、意識の変化を起こすきっかけになったことは嬉しい限りです。

今回、沖縄県内で活躍する専門家の話を聞いた後に議論に入るという組み立ても有意義でした。今後のこうした市民会議でも参考にしてもらえればと思います。地域に根ざした事例などを取り上げる講話から、環境問題を身近に捉えることができ、議論の際にも自分ごととして考えることができたのではないでしょうか。

一方、全４回・各回３時間という会議の中で、ゼロカーボンに向けた2050年の沖縄の理想像をしっかりと描くには時間が足りませんでした。次にこうした会議を行う機会があれば、本格的に時間や期間を長く取り、市民が「この未来に向けて活動したい」と思えるような提言書をまとめることができればと思います。

また、この会議を一過性のものにせず、環境への問題意識を維持するために、定期的な情報発信や会議の存続を望んだり、今後のアクションプランを考えたいという声もありました。今後、こうした声に対し何らかの支援プログラムがあると、参加者の主体性の維持や、市民同士のネットワークの広がりなど今後の展開に繋がると考えられます。

本報告書にまとめたアイディアを、今後の沖縄における気候変動対策の議論のタネとして活用していただければと思います。中には、市民の行動に制約や制限を設けるようなアイディアもあります。市民が課題を理解し、自ら議論することで、お互いに受け入れやすい政策づくりに繋げることができるのではないかと思います。

また、この記録が市民の皆さんに対する啓発や環境教育の参考になればと思います。例えば学校で気候市民会議を行い、自分たちの未来と暮らしについて話し合うことも、環境教育の実践として有効でしょう。

最後に、本会議が沖縄県内自治体の温暖化対策の手助けとなり、今後沖縄から本格的な気候市民会議を行う自治体が出てくることを心から願っています。

2024年2月

CO2ゼロゆたかな島づくり会議 実施報告書

2024年2月29日
発行：沖縄県地球温暖化防止活動推進センター
一般財団法人沖縄県公衆衛生協会
沖縄県南城市大里字大里2013
電話：098-945-2686　メール：info@koeikyo.com
編集協力：鹿谷麻夕、神谷美由希、石塚詩穂、賀数邦彦、松田かな子